

「新未来『創造』とくしま行動計画」主要施策等評価シート

基本目標5 「みんなが元気・輝きとくしま」の実現

重点戦略	主要施策	評価案	数値目標 達成状況	ページ
1 生涯現役・躍動とくしまの展開	1 「豊齢（ほうれい）先進県とくしま」の実現	B	☆☆	1
	2 介護サービスの質の向上	A	☆☆☆	5
2 加速する！女性の活躍促進	1 「男女共同参画立県とくしま」の飛躍	A	☆☆☆	9
	2 配偶者等からの暴力対策の推進	A	☆☆☆	11
3 障がい者が支える社会の構築	1 障がい者の自立支援の推進	B	☆☆	12
	2 発達障がい者（児）への支援	A	☆☆☆	15
	3 障がい者の社会参加の推進	B	☆	16
	4 障がい福祉サービスの充実	A	☆☆☆	18
4 いきいき健康とくしまの推進	1 「総合メディカルゾーン」の整備	B	☆☆	19
	2 安全・安心な地域医療体制の充実	A	☆☆☆	23
	3 がん対策の推進	B	☆☆	26
	4 救命救急医療体制の充実	C	☆	27
	5 健康寿命の延伸	B	☆☆	28
	6 糖尿病対策の推進	C	☆	30
	7 食育の推進	C	☆	31
	8 歯科保健の充実	A	☆☆☆	34
	9 感染症対策の充実強化	A	☆☆☆	35
	10 難病対策の推進	C	☆	36
	11 自殺対策の推進	A	☆☆☆	37
	12 ひきこもりに関する相談体制の充実	C	☆	38
	13 人権教育・啓発の推進	A	☆☆☆	39
	14 子どもの人権の擁護	C	☆	42
5 ふるさと貢献とくしまの推進	1 NPO・ボランティアとの連携・協働	A	☆☆☆	43
	2 NPO等の自立促進	A	☆☆☆	45
	3 魅力ある地域づくりの推進	B	☆☆	46
	4 活力ある農山漁村づくり	A	☆☆☆	49
	5 オープンデータの利活用促進	A	☆☆☆	51

「新未来『創造』とくしま行動計画」（主要指標に係る数値目標の達成状況）

□基本目標5 「みんなが元気・輝きとくしま」の実現

重点戦略	主要施策	主要指標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	部局	数値目標 達成状況	評価案
			H27	H28	H29	H30							
1 生涯現役・躍動とくしまの展開	1 「豊齢（ほうれい）先進県とくしま」の実現	○「シルバー人材センター」の派遣従事者の割合 ◎5.1%→◎10%	7%	8%	9%	10%	9%	10.5%	12.2%	◎	商工	☆☆	B
	2 介護サービスの質の向上	○モデル地区の選定 ◎→◎6地区	2地区	3地区	5地区	6地区	2地区	4地区	5地区	◎	保健	☆☆☆	A
2 加速する！女性の活躍促進	1 「男女共同参画立県とくしま」の飛躍	○「ときわプラザ（男女共同参画交流センター）」利用者数 ◎50,476人→◎50,800人	50,500人	50,600人	50,700人	50,800人	54,021人	54,015人	52,926人	◎	県民	☆☆☆	A
	2 配偶者等からの暴力対策の推進	○「デートDVサポーター」数 ◎2,129人→◎12,000人	6,000人	8,000人	10,000人	12,000人	7,885人	10,181人	12,549人	◎	県民	☆☆☆	A
3 障がい者が支える社会の構築	1 障がい者の自立支援の推進	○民間企業の障がい者雇用率 ◎1.78%→◎2.20%	1.92%	1.95%	2.10%	2.20%	2.04%	2.09%	2.17%	◎	商工	☆☆	B
	2 発達障がい者（児）への支援	○「発達障がい者総合支援センター」の就労支援件数 ◎968件→◎1,500件	1,200件	1,300件	1,400件	1,500件	1,237件	1,478件	1,839件	◎	保健 商工	☆☆☆	A
	3 障がい者の社会参加の推進	○「障がい者交流プラザ」の利用者数 ◎129,985人→◎～◎年間13万人	13万人	13万人	13万人	13万人	129,754人	134,036人	138,511人	○	保健	☆	B
	4 障がい福祉サービスの充実	○サービス管理責任者研修の修了者数（累計） ◎1,215人→◎1,800人	1,440人	1,560人	1,680人	1,800人	1,574人	1,815人	2,039人	◎	保健	☆☆☆	A
4 いきいき健康とくしまの推進 (次ページに続く)	1 「総合メディカルゾーン」の整備	○県立病院における初期・後期臨床研修医数 ◎31名→◎55名	38名	42名	48名	55名	44名	47名	55名	◎	病院	☆☆	B
	2 安全・安心な地域医療体制の充実	○医師修学資金貸与者数（累計） ◎59人→◎95人	70人	80人	90人	95人	83人	94人	106人	◎	保健	☆☆☆	A
	3 がん対策の推進	○がんの75歳未満年齢調整死亡率(人口10万対) ◎76.6（全国80.115位）→◎65.3 <暦年>	70.6	68.8	67.1	65.3	73.0	73.3	H31.1頃 確定予定	△	保健	☆☆	B
	4 救命救急医療体制の充実	○#8000の認知度 ◎→◎80%	50%	60%	70%	80%	71%	78%	85%	◎	保健	☆	C
	5 健康寿命の延伸	○健康寿命の延伸 ◎→◎平均寿命と健康寿命の差の縮小 男 9.54（全国 9.13） 女 13.48（全国 12.68）			差の 縮小		-	男 9.16 女 12.71 (県独自で 算出)	-	◎	保健	☆☆	B
	6 糖尿病対策の推進	○糖尿病粗死亡率 ◎全国最下位→◎～◎全国最下位からの脱出 <暦年>	全国最下位 からの脱出	全国最下位 からの脱出	全国最下 位からの 脱出	全国最下 位からの 脱出	43位	40位	47位	△	保健	☆	C
	7 食育の推進	○肥満傾向の児童生徒数（小中学校） ◎5,437人→◎H25年度比8%減	2%減	4%減	6%減	8%減	4.7%減	5.3%減	4.6%減	△	教育	☆	C

重点戦略	主要施策		主要指標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	部局	数値目標 達成状況	評価案
				H27	H28	H29	H30							
4 いきいき健康とくしまの推進 (前ページからの続き)	8	歯科保健の充実	○80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の増加 ㊦24.7%→㊦30.0%			30%		—	36.7%	(前倒しで H28実績 を捕捉)	◎	保健	☆☆☆	A
	9	感染症対策の充実強化	○結核健康診断受診率の向上 ㊦85.8%→㊦93%	87%	88%	93%	93%	93%	98%	97%	◎	保健	☆☆☆	A
	10	難病対策の推進	○新・難病医療拠点病院の指定 ㊦—→㊦1病院			1病院				0	△	保健	☆	C
	11	自殺対策の推進	○自殺予防サポーター数 ㊦11,915人→㊦30,000人	18千人	22千人	26千人	30千人	22,334 人	28,121 人	32,750 人	◎	保健	☆☆☆	A
	12	ひきこもりに関する相談体制の充実	○ひきこもり支援員養成数 ㊦—→㊦年間10人	10人	10人	10人	10人	63人	14人	6人	○	保健	☆	C
	13	人権教育・啓発の推進	○「あいぼーと徳島（人権教育啓発推進 センター）」事業参加者・利用者数 ㊦31,952人→㊦34,500人	33,000 人	33,500 人	34,000 人	34,500 人	37,320 人	34,929 人	39,220 人	◎	県民	☆☆☆	A
	14	子どもの人権の擁護	○里親等委託率 ㊦14.7%→㊦16.1%	15.2%	15.4%	15.6%	16.1%	15.3%	12.8%	13.0%	△	県民	☆	C
5 ふるさと貢献とくしまの推進	1	NPO・ボランティアとの連携・協働	○「とくしま県民活動ブラザ」利用者数 ㊦38,663人 →㊦年間39,000人	39,000 人	39,000 人	39,000 人	39,000 人	39,083 人	45,636 人	43,947 人	◎	県民	☆☆☆	A
	2	NPO等の自立促進	○認定NPO法人数 ㊦1団体→㊦7団体	2団体	3団体	6団体	7団体	3団体	5団体	6団体	◎	県民	☆☆☆	A
	3	魅力ある地域づくりの推進	○ふるさと納税寄附件数 ㊦212件→㊦1,200件	330件	1,050件	1,200 件	1,200 件	1,167件	1,417件	1,463件	◎	政策	☆☆	B
	4	活力ある農山漁村づくり	○「未来ある農山村づくり」に向けたビジョンの 作成地区数（累計） ㊦—→㊦12地区	3地区	6地区	9地区	12地区	3地区	6地区	9地区	◎	農林	☆☆☆	A
	5	オープンデータの利活用促進	○オープンデータ数（累計） ㊦—→㊦1,000件	600件	800件	900件	1,000 件	643件	820件	921件	◎	政策	☆☆☆	A

【注記】 「数値目標の達成度」の区分 …… ◎：達成（100%以上） ○：ほぼ達成（80%以上100%未満） △：未達成（80%未満）

—：過年度の実績値が未判明（過年度の目標数値が設定されていないもの）

「新未来『創造』とくしま行動計画」主要施策等評価シート

基本目標1「ふるさと回帰・加速とくしま」の実現

1-1 とくしま回帰！魅力あふれる「まち」の創生

②

数値目標達成状況の考え方

主要施策を構成する全ての主要事業の「数値目標の達成度」を◎を2点、○を1点、△を0点として、平均値を算出し、達成度に応じて次の区分で整理しています。

- ☆☆ 1. 8以上～2. 0
 ☆☆ 1. 6以上～1. 8未満
 ☆ 1. 6未満

主要施策：1 魅力ある地域づくりの推進	数値目標達成状況	委員意見		部局
	評価	特記事項		
		<div>③ 主要施策に対する評価(案)です。次の区分で整理しています。 A：順調</div>		

③

主要施策に対する評価(案)です。次の区分で整理しています。

- A: 順調
 B: 概ね順調
 C: 要見直し

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値（H27）	実績値（H28）	実績値（H29）	数値目標の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
1	「新未来『創造』とくしま行動計画」～平成29年度版～の主要事業の概要・数値目標・工程（年度別事業計画）を記載しています。									<p>計画に掲げた「主要事業」に対する、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H27～H29取組内容と進捗状況 ・ 計画目標の達成見込み（※） ・ 課題 ・ 今後の取組方針 <p>について記載しています。</p> <p>※計画目標の達成見込みの考え方 順調：主要な目標を達成し、又はその達成に向け順調に進んでいる。 達成可能：主要な目標を今後の更なる積極的な取組により達成可能である。 努力を要する：いずれかの目標が、現状のままでは達成に相当の努力が必要である。</p>		
2										<p>① 数値目標の「達成度」の考え方</p> <p>数値目標の達成割合を算出し、次のように達成度を整理しています。</p> <p>◎: 達成 100%以上 ○: ほぼ達成 80%以上100%未満 △: 未達成 80%未満 —: 過年度の実績値が未判明</p>		

基本目標5「みんなが元気・輝きとくしま」の実現

5-1 生涯現役！躍動とくしまの展開

主要施策：1 「豊齢（ほうれい）先進 県とくしま」の実現	数値目標 達成状況	委員意見		部局
		評価	特記事項	
	☆☆	B		政策・保健・商工

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
448	●働く意欲を持つ高齢者にその経験と能力を活かした就業の機会の確保・提供を行い、高齢者の生きがい高めるとともに、シルバー人材センターを活用し、アクティブシニアの多様な働き方の支援と周知・広報に努めることにより、地域社会の活性化を図ります。＜商工＞	順次 拡大	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ シルバー人材センターを活用した就労支援について、とくしまジョブステーション内に相談窓口を設置し新規会員の開拓に努めるとともに、委託事業により職域の拡大や就業機会の確保に努めた。 また、「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」の改正により、シルバー人材センターの働き方の規制緩和が可能となったことを受け、平成29年8月1日から、シルバー人材センターの業務のうち「派遣」「職業紹介」に限り、県内全域において「介護周辺業務」における就業時間の規制緩和を実施した。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 法改正による65歳までの継続雇用、NPO法人やボランティア団体など、シルバー人材センター以外での自己実現の場の増加により、会員の確保が相対的に難しくなっている。	引き続き、職域・就業機会の拡大及び会員の拡大に向けた取組に努めるとともに、新たな分野での就業時間の規制緩和実施に向けた検討を進めるなど、高齢者の安定した雇用の確保と生涯現役社会の実現に向けて取り組む。	商工
	○「シルバー人材センター」の派遣従事者の割合 【主要指標】 ㉔5.1%→㉕10%	7%	8%	9%	10%	9%	10.5%	12.2%	◎			
449	●アクティブシニアが社会を支える「新たな担い手」となるようなシステムを創造するための検討会議を設置し、高齢者の活躍の場づくりの実証実験を実施するとともに、「65歳以上＝高齢者」の概念の払拭を図ります。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ・商工労働観光部と連携し平成28年度「徳島県生涯現役促進地域連携事業推進協議会」を設置、当協議会が主体となり「労働力不足産業（農業）に対する労働力サポート事業」を実証実験として実施。 ・平成28年11月、意欲ある元気高齢者に介護現場で活躍いただくための「政策提言」を実施。	意欲ある元気高齢者の活躍の場の創設に努める。	保健
	○「徳島県生涯現役促進地域連携事業推進協議会」の設置 ㉔→㉕設置	設置					設置		○			
	○高齢者の「知恵や経験」を活かした活躍の場づくりの実証実験 ㉔→㉕実証実験		実証 実験				実証 実験		◎	＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 元気高齢者の更なる活躍の場が必要。		
	○「65歳以上＝高齢者」の概念払拭に向けた政策提言 ㉔→㉕政策提言	政策 提言					政策 提言		○			

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
450	●高齢者の生きがいがづくりと介護現場の負担軽減を図るため、現役職員と元気高齢者が業務をシェアする「徳島県版『介護助手』制度」の普及・定着を図ります。＜保健＞			推進	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 平成29年度、「徳島県版『介護助手』制度」を創設。制度の普及・定着に向け、介護施設において、3ヶ月間（H29.11～H30.1）、シニアを試行的に雇用していただくモデル事業を展開。 ・採用に向けた事前説明会「参加者数」 153人 ・採用面接「申込者数」 62人 ・モデル事業による介護助手「雇用者数」38人 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 「徳島県版『介護助手』制度」の更なる普及・定着が必要である。 ＜H29→H30計画の改善見直し箇所＞ 【数値目標上方修正】 ○モデル事業による「介護助手」の雇用者数（累計） ㉕→→㉙80人	「徳島県版『介護助手』制度」の更なる普及・定着に向け、モデル事業を展開する。	保健
	○モデル事業による「介護助手」の雇用者数（累計） ㉕→→㉙60人			30人	60人			38人	◎			
451	●高齢者の健康と生きがいがづくりや広域的な交流促進による地域活力の向上を図るため、「元気高齢者の健康と生きがいの祭典」として、「関西シニアマスタースターズ大会」を本県で開催します。＜保健＞	検討	→	開催	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 「WMG2021関西」の開催を契機とし、生涯スポーツの機運を高め、そのレガシーを継承していくための方策として、関西のスポーツ愛好家が参加できる新たな中・高齢者のスポーツ交流大会「関西シニアマスタースターズ大会」の開催を関西広域連合に提案、平成29年10月に第1回大会を徳島県にて開催した。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調	H30年度は、兵庫県にて第2回大会を開催予定。引き続き、生涯スポーツの一層の機運醸成を図る。	保健
	○「関西シニアマスタースターズ大会」の本県開催 ㉕→→㉙開催			開催			検討	開催	◎	＜課題＞ 構成府県市、各競技団体と連携し、生涯スポーツの一層の機運醸成を図る必要がある。		
452	●関西広域連合内のシルバー大学校等の交流による「県域を越えた仲間づくり」や「幅広い視野の養成」を推進するため、「関西広域連合シルバー大学校共同講義」を本県を含む構成府県で定期的に開催します。＜保健＞	本県開催	開催 定例化	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 開催府県：徳島県（H27）、大阪府（H28）、徳島県（H29） 先進的な取組の視察等の内容： H27 ・防災ボランティア活動を学ぶ ・阿波人形浄瑠璃講座 ・四国八十八箇所 法話聴講 ・神山からの地域創生講座 H28 ・シニアが動く。日本が変わる ・グループ討議、グループ発表 ・水都大阪見学 ・参加校による共同宣言 H29 ・徳島とドイツの交流の歴史 ・阿波藍の文化に触れる ・エシカル消費について ・人は誰でも主役になれる 参加者：H27 142人（県外50人、県内92人） H28 146人（県外125人、県内21人） H29 135人（県外53人、県内82人）	H30年度は大阪府で開催予定。	保健
	○「関西広域連合シルバー大学校共同講義」の本県開催定例化 ㉕大阪府開催→㉗本県開催・㉘～㉙開催定例化	本県開催	開催 定例化	開催 定例化	開催 定例化	本県開催	開催 定例化	開催 定例化	◎	先進的な取組を学び、幅広い視野の養成や県域を超えた仲間づくりを推進した。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調		
	○先進的な取組の視察等の実施件数 ㉕3箇所→㉗～㉙毎年3箇所	3箇所	3箇所	3箇所	3箇所	4箇所	3箇所	4箇所	◎	＜課題＞ 引き続き、構成府県との連携していく必要がある。		

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
453	<p>●「徳島県立総合大学校（まなびーあ徳島）」において、県や高等教育機関、企業、NPO、住民、市町村など多様な主体とのパートナーシップにより運営を行う講座情報を、ワンストップで提供するとともに、県民ニーズに基づいた講座の開催を推進するなど、本県のまなび拠点として、「徳島県立総合大学校（まなびーあ徳島）」の一層の充実・強化を図ります。（再掲）＜政策＞</p>	推進	→	→	→					<p><H27～H29取組内容と進捗状況> 様々な講座情報を、ホームページ等を活用したワンストップ・サービスにより情報提供を行った。</p> <p>1 総合大学校ホームページによる情報提供 2 講座一覧表を年3回各7,000部発行し、県内各施設約360ヶ所で配布。 3 まなびーあ徳島本部・メールマガジン「学びのネットワーク通信」による情報提供 4 主催講座数 H27 1,740講座、受講者数延べ101,933人 H28 1,819講座、受講者数延べ98,563人 H29 1,787講座、受講者数延べ100,401人 5 県民企画講座 H27 51講座、受講者数延べ3,886人 H28 45講座、受講者数延べ3,650人 H29 51講座、受講者数延べ3,701人 6 連携講座 H27 2,744講座 74機関で実施 H28 2,816講座 74機関で実施 H29 2,900講座 74機関で実施</p> <p><計画目標の達成見込み> 順調</p> <p><課題> 県民ニーズに基づく講座開催</p> <p><H29→H30計画の改善見直し箇所> ●「徳島県立総合大学校（まなびーあ徳島）」において、多様な主体とのパートナーシップにより運営を行う講座情報を、ワンストップで提供するとともに、<u>高等教育機関とも連携しながら県民ニーズに基づいた課題解決型の学びを推進する講座を開催するなど、本県のまなび拠点として、「徳島県立総合大学校（まなびーあ徳島）」の一層の充実・強化を図ります。</u> 【数値目標追加】 ○高等教育機関と連携して実施する講座数 ㉕一→㉔6講座</p>	県立総合大学校運営協議会における各委員からの意見・要望等を踏まえ、講座内容の充実に努める。	政策
	○主催講座受講者数 ㉕81,795人→㉔92,000人	82,000人	85,000人	91,000人	92,000人	101,933人	98,563人	100,401人	◎			
454	<p>●高齢者自身が生きがいを持って豊かな高齢期を創造できるようにするため、生きがいづくり及び活動の場づくりを支援するとともに、地域福祉を推進するリーダーを養成します。＜保健＞</p>	推進	→	→	→					<p><H27～H29取組内容と進捗状況> シルバー大学校大学院では、地域福祉を推進するリーダーの養成を図っており、卒業生は、それぞれの専門分野に応じ、地域活動や社会貢献活動を担う「生きがいづくり推進員」として活躍いただいている。</p> <p>○「生きがいづくり推進員」登録者数 843人(H30年3月末現在)</p> <p>○活動実績 H27年度 延べ1,592人(4,137時間) H28年度 延べ2,122人(5,303時間) H29年度 延べ2,084人(5,203時間)</p> <p>○シルバー大学校大学院卒業者の資格取得者数 1,363人(H30年3月末現在)</p> <p>【内訳】 ・レクリエーションインストラクター等 (307人) ・シニアITアドバイザー (872人) ・徳島県地域防災推進員 (100人) ・介護 (49人) ・四国観光検定等 (35人)</p> <p><計画目標の達成見込み> 順調</p> <p><課題> 引き続き、生きがいづくり推進員の多様な活躍の場の創出を図る必要がある。</p>	「生きがいづくり推進員」の活動がより活性化されるよう、引き続き、関係機関・団体との連携により活躍の場の創出に努める。	保健
	○生きがいづくり推進員の活動延べ人数 ㉕1,737人→㉔1,950人	1,800人	1,850人	1,900人	1,950人	1,592人	2,122人	2,084人	◎			
	○シルバー大学院における資格取得者数（累計） ㉕875人→㉔1,360人	1,075人	1,170人	1,265人	1,360人	1,111人	1,230人	1,363人	◎			

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
455	●高齢者の生きがいがづくりを推進するため、本県の様々な魅力等を発信できる人材の養成及び活動の促進を図ります。 ＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ シルバー大学校大学院「歴史・文化講座」卒業生は、H24年8月から観光ボランティアガイドとして活躍している。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調	「生きがいがづくり推進員」等の活動がより活性化されるよう、引き続き、関係機関・団体との連携により活躍の場の創出に努める。	保健
	○シルバー大学院「歴史文化講座」卒業生による「観光ボランティアガイド」の活動延べ人数 ㊦301人→㊦350人	320人	330人	340人	350人	233人	333人	337人	○	＜課題＞ 観光ボランティアガイドを含めた多様な活躍の場の創出を図る必要がある。		
456	●高齢者のICT利活用能力の向上を図るため、市町村やNPO法人等と連携しながら、人材育成に取り組めます。 ＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ シルバー大学校大学院「ICT講座」卒業生は、シニアITアドバイザー1級(477人)、2級(276人)、3級(119人)を資格取得し、Word(ワード)、Excel(エクセル)、PowerPoint(パワーポイント)、電子メール、インターネットの利用、初心者向け講習会の指導法等に関する知識を修得している。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調	引き続き、関係機関・団体と連携し、シニアITアドバイザー取得者数の増大に努め、高齢者のICT利活用能力の向上を図る。	保健
	○シニアITアドバイザー取得者数（累計） ㊦572人→㊦855人	690人	745人	800人	855人	716人	794人	872人	◎	＜課題＞ 引き続き、シニアITアドバイザーの養成を行う必要がある。		
457	●高齢者のスポーツ及び文化活動の推進を図るため、県健康福祉祭等を開催するとともに、積極的なPRや実施種目の追加等により参加者の拡大を図ります。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 県健康福祉祭（スポーツ交流大会、文化交流大会、美術展）を開催するとともに、全国健康福祉祭に選手等を派遣し、高齢者のスポーツ及び文化活動の推進を図っている。 ○県健康福祉祭等参加者数 H27 3,579人 H28 4,020人 H29 4,029人 ○全国健康福祉祭派遣人数 H27 146人 H28 167人 H29 155人 ＜計画目標の達成見込み＞ 達成可能	県健康福祉祭や全国健康福祉祭の参加者拡大を図るとともに、地域や世代を超えたふれあいと交流により、高齢者の生きがいと健康づくりの気運醸成を図る。	保健
	○県健康福祉祭等のスポーツ及び文化交流大会等の参加者数 ㊦3,579人→㊦4,600人	4,000人	4,200人	4,400人	4,600人	3,725人	4,187人	4,184人	△	＜課題＞ 引き続き、参加者数の増加に向けた取組を行う必要がある。		
458	●高齢者に生涯学習の機会をさらに多く提供するため、全県CATV網を活用し、「自宅に居ながら講座が受講」できる高齢者向けの講座を実施します。 ＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 高齢者の関心が高いと思われる「健康・防災・歴史」等の8講座を選定し、「徳島県ケーブルネットワーク機構」において、週1回、放送期間は10月から3月の6ヶ月間放送している。 受講者には修了証とバッジを交付し、スクリーニング等も実施している。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調	全ての高齢者に受講の機会を提供し、「高齢者自身の能力の再開発」や「地域活動参加のきっかけづくり」につなげていく。	保健
	○「徳島県活き活きシニア放送講座」の実施					実施	実施	実施	◎	＜課題＞ 継続して、全ての高齢者の受講の機会の確保を図ることが必要である。		
459	●県健康福祉祭において地域における高齢者が参加しやすい環境を整備するとともに、高齢者の生きがいと健康づくりを更に推進し、より多くの「元気高齢者づくり」を目指すため、「県南部、県西部サテライト大会」を開催します。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 県健康福祉祭のスポーツ交流大会において、南部サテライト大会及び西部サテライト大会を開催し、高齢者の生きがいと健康づくりを推進している。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 引き続き、参加者数の増加に向けた取組を行う必要がある。	県健康福祉祭の参加者拡大を図るとともに、地域や世代を超えたふれあいと交流により、高齢者の生きがいと健康づくりの気運醸成を図る。	保健

主要施策：2 介護サービスの質の向上	数値目標 達成状況	委員意見		部局
		評価	特記事項	
	☆☆☆	A		保健

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
460	●「地域包括ケアシステム※」の2020年構築を目指し、先進的な取組を行う地域をモデル地区として指定し、積極的に支援を行うとともに、その成果を県内全域に普及させます。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ＜H27＞ 2地区（海陽町、那賀町）を選定し、「認知症対策の充実（搜索模擬訓練、認知症予防に関する冊子作製等）」及び住民視点の地域包括ケアシステムの構築を図るための取組み（講演会、ワークショップの開催等）を支援。 ＜H28＞ 新たに2地区（阿波市、三好市）を選定し、各地区の課題（生活支援サービス提供体制の構築、高齢者の在宅支援ツールの作製等）に対する取組みを支援。 ＜H29＞ 新たに1地区（北島町）を選定し、新興住宅地における生活支援体制の構築に向けた取組み（ニーズ調査、関係団体を対象とした勉強会、住民向けの講演会等）を支援。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調	システム構築の更なる推進につなげるため、医療・介護の連携促進の視点を踏まえた取組みについての支援を行うとともに、これまでのモデル地区の成果を県内で共有する。	保健
	○モデル地区の選定【主要指標】 ㉕→㉙6地区	2地区	3地区	5地区	6地区	2地区	4地区	5地区	◎	＜課題＞ これまでのモデル地区における様々な取組について集積し、共有するための工夫が必要。		
461	●高齢者が疾病を抱えた状態で、住み慣れた生活の場で療養し、自分らしい生活を続けられるよう、地域における在宅医療・介護関係機関が連携した、多職種協働によるサービス提供体制の整備を行います。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ・H27は、県内9地域に在宅医療連携拠点を整備。 ・H28は、在宅医療・介護連携に関する関係市町村の連携について支援するため、各医療圏ごとに市町村連携会議を開催した。 ・H29は、全地域で在宅医療連携拠点整備が完了。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調	在宅医療連携拠点事業及び在宅医療連携推進事業については、これまでの成果を踏まえ、市区町村が実施する地域支援事業の包括的支援事業における在宅医療・介護連携推進事業として位置付けられ、全国的に取り組むこととされているため、引き続き、市町村の取り組みを支援する。	保健
	○在宅医療連携拠点整備地域数 ㉕3地域→㉙11地域（県内全11地域）	8地域	9地域	10地域	11地域	9地域	9地域	11地域	◎	＜課題＞ 介護保険料を財源として市町村が実施する地域支援事業の包括的支援事業における在宅医療・介護連携推進事業の円滑な運用。		
462	●マイナンバーを活用して、かかりつけ医、訪問看護師、ケアマネジャー等の多職種がネットワーク上で医療及び介護の情報を共有し、在宅での療養等生活を支えることができる全国最先端のシステム構築を推進します。＜保健＞	→	関係者協議	基本構想	構築					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 郡市医師会が取り組んでいるICTを用いた在宅医療・介護に係る情報を共有するシステムの構築を補助。 ＜計画目標の達成見込み＞ 達成可能	医療情報の連携等について、国の動きを注視し、今後の対応を検討する。	保健
	○マイナンバーを活用した「在宅医療介護連携支援システム」を構築 ㉕→㉙構築				構築	単独システム（一部）	単独システム（一部）	単独システム（一部）	—	＜課題＞ 国において、医療情報の連携等の具体的な方法が決まっていないため、構築が困難となっている。		

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
463	●介護サービスの公平で円滑な提供を図るため、介護支援専門員等の人材養成に取り組みます。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ○介護支援専門員実務研修 ＜H27＞ 延19日間 ＜H28＞ 延39日間 （H28年度から新たなカリキュラムの導入開始） ＜H29＞ 延34日間 上記の取組により、登録者数6,566人となり目標を達成した。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調	研修実施機関や職能団体との連携により、研修内容を充実させ、介護支援専門員等の資質向上を図る。	保健
	○介護支援専門員の登録者数 ㊦5,805人→㊰6,550人	6,100人	6,250人	6,400人	6,550人	6,240人	6,380人	6,566人	◎	＜課題＞ 介護現場のニーズに則した研修内容の充実		
464	●介護サービスの質の向上を図るため、介護サービス従事者の指導者等の養成研修等を実施します。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 1 主任介護支援専門員フォローアップ研修 2 主任介護支援専門員更新研修 3 介護予防従事者研修 4 （認知症）指導者研修 5 介護職員によるたんの吸引等指導者養成研修 6 資質向上研修（介護計画作成・展開研修、テーマ別資質向上研修） 上記の研修を実施することにより、H27年度337人、H28年度302人、H29年度436人の指導者を養成した。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調	介護現場で指導力を高め、介護サービスの更なる質の向上を図る。	保健
	○介護サービス従事者の指導者等の養成研修参加者数 ㊦253人→㊰275人	260人	265人	270人	275人	337人	302人	436人	◎	＜課題＞ 資格要件のある指導者研修の周知方法に工夫が必要		

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
465	●地域における高齢者支援の充実を図るため、認知症サポーターの拡大や介護予防リーダーの活躍の場づくりを推進します。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ○認知症サポーター ＜H27＞ 1 キャラバンメイト養成研修 1回 2 認知症サポーター養成研修 448回 3 認知症サポーター養成協力事業所 43登録 4 優秀キャラバンメイト表彰 25名 ＜H28＞ 1 キャラバンメイト養成研修 1回 2 認知症サポーター養成研修 410回 3 認知症サポーター養成協力事業所 23登録 4 優秀キャラバンメイト表彰 37名 ＜H29＞ 1 キャラバンメイト養成研修 1回 2 認知症サポーター養成研修 382回 3 認知症サポーター養成協力事業所 24登録 4 優秀キャラバンメイト表彰 42名 上記の取組により、総人口に占める「サポーター数」の割合は「全国トップ10」となり、認知症の人や家族を見守る応援者の養成につなげることができた。 ○介護予防リーダー 各市町村の老人クラブの会員等を対象として県内3箇所（中央・南部・西部）において研修を実施し、地域において介護予防活動を実施する「介護予防リーダー」を養成するとともに、「介護予防リーダー」の更なるスキルアップを図るため、技能向上研修を行った。 また、県内8市町村において介護予防リーダー活用促進事業を実施し、「いきいき百歳体操」や「認知症予防の講習」などにおいて、介護予防リーダーの積極的な活用を図った。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ ○認知症サポーター 若年性認知症対策の推進につなげるためにも、学校や企業等へ対象を拡大することが必要。 ○介護予防リーダー 引き続き、「介護予防リーダー」の技能向上や、各地域の健康づくり行事等での企画運営への参画などの活躍の場の拡大に努める必要がある。	○認知症サポーター 認知症の方や家族が安心して暮らせる地域づくりのため、企業や学校でのサポーター養成講座の開催を促進することで、更なる見守り体制の強化につなげる。 ○介護予防リーダー 引き続き、技能向上研修や介護予防活動推進モデル事業を実施し、「介護予防リーダー」の技能向上と活躍の場の拡大に努める。	保健
	○認知症サポーター数 ㉔17,909人→㉔74,000人	40,000人	50,000人	66,000人	74,000人	50,439人	63,215人	75,949人	◎			
	○「介護予防リーダー」活用促進事業による介護予防リーダー活動実績人数（累計） ㉔→㉔980人			490人	980人			810人	◎			

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
466	●若者の高齢者介護の理解を深めるため、「徳島県介護実習・普及センター」等において、中高生が介護の知識を学び、「介護体験」ができる講座を実施します。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 1 やってみよう介護講座 ＜H27＞中学校：5回 高校：1回 ＜H28＞中学校：2回 高校：1回 ＜H29＞中学校：2回 高校：1回 2 やってみよう介護講座（出張型） ＜H27＞中学校：2回 高校：1回 ＜H28＞中学校：1回 高校：1回 ＜H29＞中学校：5回 上記の取組により、H27年度123人（中：115人、高：8人）、H28年度104人（中：65人、高：39人）、H29年度242人（中：231人、高：11人）が受講した。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調	中高生に高齢者介護に関心を持ってもらえるような介護体験・講座の機会を設けられるよう、関係機関等との調整を図る。	保健
	○中高生のための「介護講座」受講者数 ㊦ 79人→㊰ 95人	80人	85人	90人	95人	123人	104人	242人	◎	＜課題＞ 高校生の受講数を増やす工夫が必要。		
467	●高齢者に対する虐待を防止し、高齢者の尊厳の保持を図るため、虐待防止に向けた普及啓発を図ります。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ・H27 高齢者虐待防止研修会 1回 ・H28 高齢者虐待防止研修会 1回 ・H29 高齢者虐待防止研修会 1回 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 高齢者虐待に対する対応力の向上を図るために、引き続き市町村や施設従事者等に対する研修の開催が必要。	高齢者虐待に関する相談、防止、支援等の業務に従事する職員に対し研修等を実施し、正しい知識や技術の普及啓発を行う。	保健

基本目標5「みんなが元気・輝きとくしま」の実現

5-2 加速する！女性の活躍促進

主要施策：1 「男女共同参画立県 とくしま」の飛躍	数値目標 達成状況	委員意見		部局
		評価	特記事項	
		☆☆☆	A	
				危機・経営・県民・商工

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
468	<p>●「男女共同参画交流センター」を核として、講演会やセミナーを開催するなど、総合的かつ計画的に男女共同参画を進めます。</p> <p>また、平成26年度「女性活躍元年」における「女性活躍推進フォーラム」開催による機運の高まりを持続させ、さらに女性活躍推進加速化を図るため、新たな企画を取り入れるなど「役立つ学び場」として「輝く女性応援フェスティバル」を開催するとともに、女性活躍のための「推進計画」を策定します。</p> <p><県民></p>	推進	→	→	→					<p><H27～H29取組内容と進捗状況></p> <p>県内民間団体、企業、女性団体等と協働しながら「女性支援」、「子育て」、「男女共同参画」など多様なテーマによる人材育成・啓発事業を実施した。</p> <p>1 「フレアキャンパス講座」（H27は「フレアとくしま100講座」）開催実績</p> <p>(1) 主催事業 H27 110件 11,143人、H28 98件 9,969人、 H29 98件 11,579人</p> <p>(2) 共催事業 H27 75件 7,607人、H28 88件 5,861人、 H29 69件 5,445人</p> <p>(3) 企業等とのコラボ事業 H27 40件 2,896人、H28 23件 2,436人、 H29 36件 3,135人</p> <p>(4) 企画委託事業 H27 11件 495人、H28 12件 956人、 H29 14件 498人</p> <p>2 「輝く女性応援フェスティバル」 H27 11.6～11.9開催、H28 11.11～13開催、 H29 11.10～11.12開催</p> <p>3 「男女共同参画フォーラムinとくしま」 H27.7.25開催</p> <p>上記の取組により、ときわプラザ利用者数や参加者の企画内容満足度等の目標値を達成した。</p>		
	○「ときわプラザ（男女共同参画交流センター）」利用者数【主要指標】 ㉕50,476人→㉖50,800人	50,500人	50,600人	50,700人	50,800人	54,021人	54,015人	52,926人	◎	<p><計画目標の達成見込み> 順調</p> <p><課題></p> <p>ときわプラザ新規利用者の拡大</p> <p><H29→H30計画の改善見直し箇所></p> <p>●「男女共同参画交流センター」を核として、講演会やセミナーを開催するなど、総合的かつ計画的に男女共同参画を進めます。</p> <p>また、平成26年度「女性活躍元年」における「女性活躍推進フォーラム」開催による機運の高まりを持続させ、さらに女性活躍推進加速化を図るため、新たな企画を取り入れるなど「役立つ学び場」として「ともに輝くフェスティバル」を開催するとともに、女性活躍や次世代を担う人材の育成に取り組みます。</p>	ときわプラザ利用促進のため、過去の課題を検証し、利用割合の低い男性向けの講座を開催するなど男性の利用促進を図るとともに、LGBTや男女共同参画の視点からの防災対策など時流に応じたテーマの講座を開催する。	県民
	○「フレアキャンパス」受講者数 ㉕17,529人→㉖17,900人	17,600人	17,700人	17,800人	17,900人	22,141人	19,222人	20,657人	◎		また、本県の女性活躍の「質の向上」と「裾野拡大」に重点的に取り組むため、女性活躍・次世代人材育成に向けた学びの場として「とくしまフューチャークアデミー」を創設し、政策・方針決定過程への女性・若者の参画拡大を図るとともに、男女共同参画社会づくりに向けた意識啓発のため「ともに輝くフェスティバル」を開催する。	
	○「輝く女性応援フェスティバル」の開催 ㉗～㉘開催	開催	開催	開催		開催	開催	開催	◎			
	○「男女共同参画フォーラムinとくしま」の開催 ㉗開催	開催				開催			◎			
	○イベント参加者・講座受講者の企画内容満足度（アンケート調査結果） ㉕→㉖80%	70%	70%	80%	80%	87%	96%	91%	◎	<p>【数値目標上方修正】</p> <p>○「ときわプラザ（男女共同参画交流センター）」利用者数 ㉕50,476人→㉖54,100人</p> <p>○「ともに輝くフェスティバル」の開催 ㉗～㉘開催</p>		
	○イベント・講座による実践的活動への参加意欲向上度（アンケート調査結果） ㉕→㉖60%	40%	50%	50%	60%	71%	81%	72%	◎	<p>○イベント参加者・講座受講者の企画内容満足度（アンケート調査結果） ㉕→㉖90%</p> <p>○イベント・講座による実践的活動への参加意欲向上度（アンケート調査結果） ㉕→㉖80%</p>		
	○女性活躍推進法に基づく「推進計画」の策定 ㉙策定		策定				策定		◎	<p>【数値目標追加】</p> <p>○政策・方針決定過程への参画拡大等に向けた「女性・若者」の人材育成・活躍の場の創設 ㉙創設</p>		

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
469	●女性が働きやすい企業や、働く女性のロールモデルを紹介するポータルサイトによる情報発信を行うとともに、全国で活躍する女性が集う大会を誘致するなど、働く女性を応援し、活躍を促進します。 （再掲）＜商工＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 「“はたらいている”、“はたらきたい”女性のための情報」「企業、職場の意識啓発に関する情報」などを掲載したポータルサイト「徳島“はたらく”女性応援ネット」を平成27年度に開設、平成28年度より公開し、情報発信を行っている。 商工業の振興・発展に尽力される女性経営者の研鑽と交流を目的とした「全国商工会議所女性会連合会」の開催を支援した。	コンテンツのさらなる充実を図るため、関係機関との連携のもと、情報の幅広い収集に努めていく。 引き続き商工業の振興・発展に尽力される女性経営者の研鑽と交流の機会の提供を支援する。	商工
	○「徳島“はたらく”女性応援ネット」の創設 ⑦創設	創設				創設			◎	＜計画目標の達成見込み＞ 順調		
	○「全国商工会議所女性会連合会総会」の開催 ⑩開催		開催				開催		◎	＜課題＞ ポータルサイトのコンテンツのさらなる充実		
470	●東日本大震災で明らかとなった、避難所の環境や被災者の心のケアなど、これまでの災害対策を取り巻く課題解決のため、県地域防災計画を策定する県防災会議の委員のうち女性委員の割合を更に拡大し、女性の視点を取り入れた災害対策をより一層進めます。＜危機＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 自主防災組織を構成する者又は学識経験のある者から女性を積極的に登用すること等により、女性の視点を取り入れた災害対策を推進した。 ＜計画目標の達成見込み＞ 達成可能	自主防災組織を構成する者又は学識経験のある者から女性を積極的に登用すること等により、引き続き、県防災会議における女性委員の確保に努める。	危機
	○「県防災会議」の女性委員の割合 ⑮20.8%→⑳50.0%	43.8%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	48.8%	48.8%	○	＜課題＞ 女性の視点を取り入れた災害対策をさらに推進するため、引き続き、県防災会議における女性委員の確保に努める必要がある。		
471	●県行政の効率的かつ効果的な推進をはじめ、ワーク・ライフ・バランスの確立に資する「しなやかでバランスのとれた体制」を目指す中、女性がより一層能力を発揮することで、人口減少をはじめとする行政課題への処方箋を示し、実行していくため、やる気と能力のある女性職員を役付職員に登用するとともに、能力実証に基づく管理職への登用を推進します。（再掲）＜経営＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ・収税業務、用地交渉業務等の折衝業務や政策の企画立案業務等に女性職員を配置 ・職員の意識啓発を図るための研修を実施 ・女性活躍推進法に基づく「特定事業主行動計画」を策定（H28.3） ・自己申告制度や庁内公募制の活用による積極的な配置の推進 ・自治大学校への派遣者2名のうち、1名を女性に（H15～） ・係長以上の女性役付職員数 H25.4:310人 H26.4:324人 H27.5:348人 H28.4:355人 H29.4:368人 H30.4:377人 ・管理職員に占める女性職員の割合 H25.4:6.0% H26.4:6.8% H27.5:8.7% H28.4:9.0% H29.4:9.6% H30.4:10.2%	職域の拡大による多様な職務経験の付与、研修機会の充実などの能力開発を通じ、やる気と能力のある女性職員の役付職員への登用、能力実証に基づく管理職員への登用を推進する。	経営
	○係長以上の女性役付職員数 ⑮324人→⑳400人				400人	355人 (H28.4)	368人 (H29.4)	377人 (H30.4)	—	＜計画目標の達成見込み＞ 努力を要する		
	○女性管理職の割合 ⑮6.8%→⑳13.6%				13.6%	9.0% (H28.4)	9.6% (H29.4)	10.2% (H30.4)	—	＜課題＞ ・登用年齢層に女性職員が少ないこと（今後徐々に改善の見込み） ・女性のキャリア形成に資する研修等の能力開発や職域の一層の拡大、更なる仕事と家庭の両立が可能な職場環境づくり		
472	●政策・方針決定過程への女性の参画を促進するため、県審議会等委員への女性の登用を引き続き進めます。＜県民＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 全庁を挙げて女性の登用促進に取り組んだ結果、女性委員の選任割合が増加し、H20年度からH27年度まで8年連続で全国1位となった。H28年度は全国2位、H29年度は再び1位と全国トップクラスの水準を維持している。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調	引き続き、「審議会等への女性委員の選任促進要綱」に基づき、計画的な女性登用に取り組む。	県民
	○「県審議会等委員に占める女性」の割合 ⑦～⑩全国トップクラスを連続達成	全国トップクラス	全国トップクラス	全国トップクラス	全国トップクラス	全国第1位	全国第2位	全国第1位	◎	＜課題＞ 全体では、「審議会等への女性委員の選任促進要綱」で掲げている、「女性比率50%以上」を達成しているが、個々では、未達成の審議会等もあるため、計画的な登用を継続する必要がある。		

主要施策：2 配偶者等からの暴力対策の推進	数値目標達成状況	委員意見		部局
		評価	特記事項	
		☆☆☆	A	

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値（H27）	実績値（H28）	実績値（H29）	数値目標の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
473	●配偶者等からの暴力の防止の視点に立って、若年層を対象に、「デートＤＶ防止セミナー」などの啓発を推進します。＜県民＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 1 出前講座等によるセミナー開催 ・（H27 26校2,364人、H28 25校2,296人、H29 26校2,368人、（累計12,549人）） 2 教育関係者や保護者、関係機関等を対象とした講演会等開催 ・ときわプラザ H27 1回、H28 2回、H29 1回 ・中央・南部・西部各こども女性相談センター H27、H28、H29 各センターにおいて各年度1回 3 高校生への公募による「啓発マンガ」である ・「ストップ！ＤＶ」啓発冊子を活用した周知啓発 上記の取組により広く県民への広報・啓発に努めた。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 県民への継続した周知啓発が重要。	引き続き、広く県民への広報・啓発を推進するため、出前講座、講演会等を実施する。	県民
	○「デートＤＶサポーター」数【主要指標】 ㉔ 2,129人→㉕ 12,000人	6,000人	8,000人	10,000人	12,000人	7,885人	10,181人	12,549人	◎	＜H29→H30計画の改善見直し箇所＞ 【数値目標上方修正】 ○「デートＤＶサポーター」数【主要指標】 ㉔ 2,129人→㉕ 14,200人		
474	●配偶者等からの暴力の防止や被害者の救済と自立支援のため、研修等による職員の資質向上に努めるなど、「配偶者暴力相談支援センター（ＤＶ相談センター）」機能の充実を図るとともに、関係機関等との連携を強化します。また、民間団体の活動を支援し、協働して地域における支援活動の充実に取り組めます。＜県民＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 1 「配偶者からの暴力に関する相談機関等連絡会議」開催 2 「ストップ！ＤＶ強化推進月間」（11月～12月）における啓発推進事業 ・「ＤＶ防止啓発講演会」 ・パネル展（あわぎんホール、ときわプラザ等） ・啓発キャンペーン（街頭キャンペーン） ・ときわプラザパープルライトアップ 3 「ＤＶ等相談窓口ステッカー」による啓発 企業等の協力により女子トイレにステッカーを貼付し、ＤＶ被害者に相談窓口の周知を図った。 上記の取組により広く県民への広報・啓発に努めた。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 若年層を含む県民への継続した周知啓発が重要。	引き続き、広く県民への広報・啓発を推進するため、他団体等と連携しながら啓発推進事業を実施する。	県民

基本目標5「みんなが元気・輝きとくしま」の実現

5-3 障がい者が支える社会の構築

主要施策：1 障がい者の自立支援の推進	数値目標 達成状況	委員意見		部局
		評価	特記事項	
	☆☆	B		保健・商工・西部

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
475	<p>●「徳島県障がい者の雇用の促進等に関する条例」や「とくしま障がい者雇用促進行動計画（第4期）」に基づき、教育・福祉などの関係機関はもとより、企業や業界団体との協働による「障がい者雇用」の推進や、職場訓練や就業生活支援などの「職場定着」に向けた取組みを充実することにより、全国トップクラスの障がい者雇用の促進をめざします。 ＜商工＞</p>	推進	→	→	→					<p>＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 県教育委員会や労働局など関係機関と連携し、以下の取組を実施。 1 とくしま障がい者雇用促進県民会議（H27:1回、H28:2回、H29:1回） 2 障がい者雇用促進ネットワーク会議（H27:3回、H28:1回、H29:2回開催） 3 ゆめチャレンジフェスティバル（H27:2回、H28:2回、H29:2回開催） 4 はたらくサポートプロジェクト（学校見学会）（H27:1回、H28:1回、H29:1回） 5 はたらくサポートプロジェクト（企業見学会）（H27:1回、H28:1回、H29:1回） 6 就労支援活動に関する協定の締結（3団体） 7 精神・発達障害者しごとサポーター養成講座（H29:3回開催） 8 障がい者雇用優良企業表彰（H27:3社、H28:1社、H29:2社） 9 チャレンジとくしま表彰（H27:6名、H28:4名、H29:5名） これらの取組による障がい者の雇用促進に取り組んだ結果、民間企業の障がい者雇用率の目標数値を達成することができた。 ＜計画目標の達成見込み＞ 達成可能 ＜課題＞ 平成30年度から新たに法定雇用率対象企業となった従業員45.5人以上50人未満の企業を重点的に障がい者雇用に対する意識啓発、定着支援を図っていく必要がある。 ＜H29→H30計画の改善見直し箇所＞ ●「徳島県障がい者の雇用の促進等に関する条例」や「とくしま障がい者雇用促進行動計画（第4期）」に基づき、教育・福祉などの関係機関はもとより、企業や業界団体との協働による「障がい者雇用」の推進や、職場訓練や就業生活支援などの「職場定着」に向けた取組みを充実します。具体的には、雇用に関して不安や課題を持つ企業に対し、関係機関、企業及び業界団体との緊密な連携体制による、きめ細かな支援を行うことにより、全国トップクラスの障がい者雇用の促進をめざします。</p>	<p>平成30年度から法定雇用率が引き上げられ対象企業も増加したことから、障がい者雇用未実施の企業で新たに対象となった企業に重点をおいて企業相談コーディネーターによる障がい者理解や更なる障がい者雇用の促進に取り組む。</p>	商工
	○民間企業の障がい者雇用率【主要指標】 ㊦ 1.78%→㊧ 2.20%	1.92%	1.95%	2.10%	2.20%	2.04%	2.09%	2.17%	◎			
	○法定雇用率「達成企業」の割合 ㊨ 全国14位→㊩ 全国10位以内	10位				4位	5位	4位	◎			

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
476	●障がい者の働く意欲と能力に応じて働ける社会づくりを推進するため、就労支援事業所の生産品の販路拡大などによる事業所経営の改善支援等により、施設利用者の工賃※のアップを図ります。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ H27は、授産製品ブランド化推進事業、障がい者サポート技術指導強化事業、「あわのわ」共同販売拡大事業による取組を進めた。 H28は、障がい者就労工賃トップラン事業、H29は、障がい者いきいき活躍就労促進事業として、専門指導員による施設グループごとの課題に応じた指導や、エンカ消費を切り口とした新たな付加価値戦略の推進によるブランド力の強化を図るとともに、販路拡大に向けて大都市圏での共同販売会を実施した。	引き続きブランド化推進、販路拡大等に取り組みとともに、「藍」「竹糖」など県の伝統産業の拡大を図る。また、全庁的、計画的に授産製品の優先調達を推進する。	保健
	○施設利用者の工賃（月額） ㉔19,299円→㉕約22,200円 （全国㉔14,437円）	20,500円	21,300円	21,700円	22,200円	20,495円	20,876円	11月頃 判明予定	△	＜計画目標の達成見込み＞ 達成可能 ＜課題＞ 1. きめ細かい技術支援による品質向上 2. 広報の強化		
	○施設利用者の平均工賃全国順位 ㉔全国2位→㉕全国1位				全国1位	全国2位	全国2位	31年 2月頃 判明予定	—			
477	●障がい者が高齢者に対し、日用品等の移動販売や見守り活動を行うことにより、働く意欲と特性に応じ活躍できる場を創出し、地域に貢献する活動の推進を図ります。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ H27は、障がい者が繋ぐ地域の暮らし“ほっとかない”事業を通じた見守り活動を着実に実施した。 H28に2施設、H29は1施設に対して車両等の購入に対する補助を行い、対象地域を拡大し、事業を確実に実施した。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 新たな実施事業者の確保 ＜H29～H30計画の改善見直し箇所＞ 【数値目標】 ○実施市町村数 ㉔→㉕1.1市町村	1. 更なる実施市町村の拡大に向け関係各所への働きかけを行う。 2. 地域の実情に合わせて事業内容の改善、進化に取り組む。	保健
	○実施地域数 ㉔1地域→㉕6地域	3地域	4地域	5地域	6地域	4地域	4地域	5地域	◎			
478	●すべての障がい者にとって一層の権利擁護が図られる条例を制定し、障がいのある人もない人もお互いに支え合いながら、生き生きと心豊かに暮らせる共生社会の実現を目指します。＜保健＞	制定	推進	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 1 「障がいのある人もない人も暮らしやすい徳島づくり条例」 平成27年12月25日 制定、一部施行 平成28年4月1日 全面施行 2 講演会や行政説明等による条例趣旨の周知 3 「徳島県障がい者差別解消連絡会議」 平成29年2月10日 設置、開催 平成30年3月26日 開催 4 情報支援機器等の整備によるコミュニケーションサポート 5 ヘルプマークの普及促進 上記の取組により、障がい者の権利擁護や県民理解の促進を図った。 ＜計画目標の達成見込み＞順調 ＜課題＞ 県民に対する条例の周知と着実な施策の実施に継続して取り組む必要がある。	障がい者の権利擁護や県民理解の促進のために「徳島県障がい者差別解消連絡会議」の運営、情報支援機器等の整備によるコミュニケーションサポート及びヘルプマークの普及促進に取り組む。	保健
	○「障がいのある人もない人も暮らしやすい徳島づくり条例」の制定・推進 ㉔制定	制定				制定			◎			
	○「障害者差別解消支援地域協議会」の設置・開催 ㉔設置・開催		設置・開催				設置・開催	開催	◎			

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
479	●保護者の就労時間に配慮した障がい児の受入れを行う指定障がい児通所支援事業所の設置を推進します。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ・開設希望者に対する開設の適正手続を指導。 ・保護者のニーズに伴い障がい児通所支援事業所数は順調に増加。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 新規開設事業所の適正な運営とサービスの確保。 ＜H29→H30計画の改善見直し箇所＞ 【数値目標上方修正】 ○17時以降も営業する 指定放課後等デイサービス事業所数 ㊦36か所→㊦90か所	開設希望者に対し施設設置に関する基準により適切な指導を行うとともに、開設後の適正な運営を指導し、サービスの質の確保を図る。	保健
	○17時以降も営業する 指定放課後等デイサービス事業所数 ㊦36か所→㊦90か所	55か所	56か所	57か所	58か所	66か所	77か所	90か所	◎			
480	●グループホームの整備を促進し、生活基盤の充実を図り、障がい者の地域生活への移行を推進します。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ・指定基準の解釈を明確に示し、開設希望者に対する適正手続を指導。 ・入所施設から地域移行への方向性の中、グループホームの定員数は順調に増加。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ ・施設入所からグループホームへの移行の促進。 ・新規開設を希望する事業者の確保。 ＜H29→H30計画の改善見直し箇所＞ 【数値目標上方修正】 ○グループホームの定員数 ㊦577人→㊦711人	開設希望者に対し施設設置に関する基準により適切な指導を行うとともに、開設後の適正な運営を指導し、サービスの質の確保を図る。	保健
	○グループホームの定員数 ㊦577人→㊦675人	590人	655人	665人	675人	665人	676人	680人	◎			
481	●県西部圏域において、地元企業等と連携して障がい者が農作物の作付けを行う「チャレンジドファーム」を開設し、農業分野における障がい者の就労を促進します。＜西部＞	促進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 1. にし阿波農福連携推進連絡会議の開催（1回/年度） 2. チャレンジドファームの設置（2カ所） 3. ドクダミ、野菜等の栽培指導（H27: 4回、H28: 6回、H29: 8回） 上記の取り組みにより、計画目標を達成した。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 地域の障がい者施設での取り組みの拡大が必要 ＜H29→H30計画の改善見直し箇所＞ ●県西部圏域において、地元企業等と連携して障がい者が農作物の作付けを行う「チャレンジドファーム」の実践・拡大を図り、農業分野における障がい者の就労を促進します。 【数値目標上方修正】 ○「チャレンジドファーム」における障がい者就労者数 ㊦1人→㊦年間20人以上	農福連携に取り組む障がい者施設の掘り起こし等により、にし阿波型チャレンジドファームの実践及び拡大を支援する。	西部
	○「チャレンジドファーム」における障がい者就労者数 ㊦1人→㊦年間20人以上	10人	10人	10人	10人	17人	15人	18人	◎			

主要施策：2 発達障がい者(児)への支援	数値目標 達成状況	委員意見		部局
		評価	特記事項	
	☆☆☆	A		保健・商工

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
482	<p>●発達障がい者（児）を支援する施設を集約した「全国に先駆けた」総合的な支援体制（ゾーン）の充実を図るとともに、県西部に新たな拠点を整備し、県下全域で発達障がい者（児）とその家族が抱える「不安の軽減」及び発達障がい者の「自立と社会参加」の促進のため、医療・福祉・教育・就労の各関係機関が連携しきめ細やかな発達障がい者（児）の支援を推進します。＜保健・商工＞</p>	推進	→	→	→					<p><H27～H29取組内容と進捗状況></p> <p>1. 発達障がい者支援の専門機関（発達障がい者総合支援センター）として、関係機関と連携を強化し、各ライフステージに応じた支援や相談の充実を図った。</p> <p>・相談支援（移動相談・医療相談等）</p> <p>・発達支援（ペアレント・トレーニング事業、思春期自己理解教室等）</p> <p>・就労支援（当事者の会・就労移行サポート等）</p> <p>2. 福祉・教育・医療・就労等関係機関からの要望に応え専門的な助言支援を行うとともに、支援者・一般向けの研修会を開催し、地域支援の充実と理解の促進を図った。</p> <p>・発達障がい児支援専門員養成事業</p> <p>専門員認定者 H27：15人 H28：26人 H29：24人</p> <p>基礎講座修了者 H27：29人 H28：30人 H29：38人</p> <p>応用講座修了者 H27：15人 H28：26人 H29：24人</p> <p>フォローアップ講座受講者 H28：9人 H29：16人</p> <p>・発達障がい支援従事者研修会</p> <p>H27：143人 H28：94人 H29：49人</p> <p>3. 「発達障がい者総合支援プラン」</p> <p>平成28年3月策定</p> <p>4. 発達障がい者総合支援センター[アイリス]</p> <p>平成27年5月1日開設</p> <p>5. 「アイリス」と「西部テクノスクール」が連携し、木工、車体整備などの作業経験を積むことで就労へのステップアップにつながった。</p> <p>・H27・1名（スマホ立て製作や洗車作業などの職業訓練を実施）</p> <p>・H28・3名（写真立て製作や電線の仕付け作業などの職業訓練を実施）</p> <p>・H29・1名（スマホ立て製作や水栓の取り付け作業などの職業訓練を実施）</p> <p><計画目標の達成見込み> 順調</p> <p><課題></p> <p>1. 発達障がいへの社会の理解を深める</p> <p>2. 個別性を重視した就労までのきめ細かい支援と就労継続支援</p> <p>3. 関係機関の支援力を高める</p>	<p>1. 発達障がいへの社会の正しい理解を促進する発達障がい気づき応援事業を新たに実施し、広く県民への情報発信に努め、発達障がい者がどの支援機関にもつながっていない状態を回避するとともに、関係機関の発達障がいについての知識と対応力をつけることで、地域全体の支援力を高める。</p> <p>2. ライフステージに応じた支援の充実</p> <p>相談支援、発達支援、就労支援を通じ切れ目のない支援を行うことにより、発達障がいによる特性を本人や家族が理解することで、自己肯定感を獲得し、ソーシャルスキルを高める。</p> <p>3. 地域支援体制の充実・強化</p> <p>平成30年度は「発達障がい者総合支援プラン」の最終年度である。支援体制整備検討委員会の議論を踏まえ、初版プランの進捗状況並びに発達障がいを取り巻く現状を踏まえたプランを策定する。</p>	保健 商工
	○「発達障がい者総合支援センター」の就労支援件数【主要指標】 ㉔968件→㉕1,500件	1,200件	1,300件	1,400件	1,500件	1,237件	1,478件	1,839件	◎			
	○「発達障がい者総合支援センター」の相談件数 ㉔2,469件→㉕3,500件	2,900件	3,100件	3,300件	3,500件	2,962件	3,265件	4,004件	◎			
	○発達障がい児支援専門員養成数 ㉔→㉕年間25人	15人	15人	25人	25人	15人	26人	24人	○			
	○「発達障がい者総合支援プラン」の策定 ㉔策定	策定				策定			◎			
	○「発達障がい者総合支援センターアイリス（美馬市）」の開設 ㉔開設	開設				開設			◎			
	○「アイリス」と「西部テクノスクール」が連携した職業訓練の実施 ㉔実施	実施				実施			◎			

主要施策：3 障がい者の社会参加の推進	数値目標 達成状況	委員意見		部局
		評価	特記事項	
		☆	B	

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
483	●「障がい者交流プラザ」を活用し、障がいのある人もない人もスポーツや芸術・文化活動等を通じて、社会参加と交流を促進します。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ・モニタリングの実施等による利用者ニーズの把握 ・自主事業の実施 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 適正なモニタリングの継続実施が必要	障がい者交流プラザの利用促進のため、利用者の目線に立った管理運営を実施する。	保健
	○「障がい者交流プラザ」の利用者数【主要指標】 ㊦129,985人→㊧～㊨年間13万人	13万人	13万人	13万人	13万人	129,754人	134,036人	138,511人	○			
484	●障がい者が住み慣れた地域で安心した生活が送れるよう、障がい特性に応じて日常生活をサポートし、自立と社会参加を促進します。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 【盲導犬育成】 ・H27は盲導犬1頭の育成中に貸与候補者が全国的にも大きな問題となった交通事故により、死亡したため育成を中止した。 ・H28からは育成を再開し、H28盲導犬1頭、H29に介助犬1頭を育成、順調に育成頭数を伸ばしている。 【意思疎通支援者】 ・県意思疎通支援者養成講座の実施 ・県意思疎通支援者登録試験の実施 ＜計画目標の達成見込み＞ 達成可能 ＜課題＞ 【盲導犬育成】 ・身体障がい者補助犬に対する理解を深めることが必要。 【意思疎通支援者】 ・人材育成に向け、養成講座の受講者を増やすことが必要。 ＜H29→H30計画の改善見直し箇所＞ ●障がい者が住み慣れた地域で安心した生活が送れるよう、障がい特性に応じて日常生活をサポートし、自立と社会参加を促進するため、 <u>県登録意思疎通支援者の更なる育成や補助犬の育成機関等との連携強化を図ります。</u> 【数値目標上修正】 ○県登録意思疎通支援者数 ㊦104人→㊧ <u>148人</u>	障がい者の自立と社会参加を促進するため、引き続き、身体障がい者補助犬貸付事業や意思疎通支援者養成講座を実施する。	保健
	○補助犬の育成頭数（累計） ㊦15頭→㊧19頭	16頭	17頭	18頭	19頭	15頭	16頭	17頭	△			
	○県登録意思疎通支援者数 ㊦104人→㊧138人	123人	128人	133人	138人	129人	140人	146人	◎			
485	●優れた技術・技能を有する障がい者を「徳島県障がい者マイスター」として認定・表彰することで、さらなる意欲の向上と就労・社会参加の一層の促進を図ります。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ H27・H28とも各3人のマイスターを認定 H29は、4人のマイスターを認定 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ マイスター制度の認知度の向上	広報活動の強化、マイスター認定者への活動機会の創出に取り組み、マイスターのブランド価値を高める。	保健
	○障がい者マイスター認定者数（累計） ㊦1→㊧16人	7人	10人	13人	16人	7人	10人	14人	◎			

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
486	●県内小、中、高、特別支援学校において「障がい者トップアスリートによる講演会」を開催し、障がい者スポーツの素晴らしさを伝え、その理解を深めることにより、徳島から2020年東京パラリンピックの気運の醸成を図ります。 ＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ パラリンピック等国際舞台で活躍する選手が県内学校を訪問し、自身の経験やスポーツの魅力を語る講演を行った。 H27 11回（参加者3,635人） H28 10回（参加者1,480人） H29 10回（参加者2,652人） ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ パラリンピック等に向けて、継続実施することが必要。	引き続き多くの児童・生徒に参加してもらうため、未開催校等での講演会を実施する。	保健
	○障がい者トップアスリート講演会実施回数 ⑮→⑰～⑳年間10回	10回	10回	10回	10回	11回	10回	10回	◎			
487	●国際大会や全国大会で活躍が期待される障がい者スポーツ選手を支援し、本県からパラリンピック及びデフリンピック※の出場選手を輩出することにより、障がい者の自立と社会参加へのさらなる意欲の向上と県民理解の一層の推進を図ります。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ パラリンピック等選手育成強化支援事業の募集周知（資料提供、ホームページ、市町村周知依頼、関係機関）等広く呼びかけ、選考委員会を開催。H27は4人、H28は5人、H29は7人の強化選手を決定し、活動の助成を行った。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ パラリンピック等に向けて、継続実施することが必要。	本県からパラリンピック等の出場選手の輩出のため、パラリンピック等選手育成強化支援事業を実施する。	保健
	○パラリンピック等育成強化選手数 ⑮→⑰～⑳年間3人	3人	3人	3人	3人	4人	5人	7人	◎			

主要施策：4 障がい福祉サービスの充実	数値目標 達成状況	委員意見		部局
		評価	特記事項	
	☆☆☆	A		保健

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
488	●障がい福祉サービスを充実するための人材を養成します。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 研修において、対象者毎に専門性の高いコース別の研修を実施し、障がい福祉サービスを充実するための人材を養成した。 ＜計画目標の達成見込み＞順調 ＜課題＞ 事業者の支援の質の向上。講師の確保	制度内容の変更に留意し、制度改正に沿った研修となるよう内容の充実を図る。	保健
	○サービス管理責任者研修の修了者数（累計） 【主要指標】 ㊦ 1, 215人→㊧ 1, 800人	1,440人	1,560人	1,680人	1,800人	1,574人	1,815人	2,039人	◎	＜H29→H30計画の改善見直し箇所＞ 【数値目標上方修正】 ○サービス管理責任者研修の修了者数（累計）【主要指標】 ㊦ 1, 215人→㊧ 2, 200人 ○相談支援従事者研修の修了者数（累計） ㊦ 1, 982人→㊧ 3, 200人		
	○相談支援従事者研修の修了者数（累計） ㊦ 1, 982人→㊧ 2, 800人	2,350人	2,500人	2,650人	2,800人	2,486人	2,765人	2,823人	◎			
489	●障がい者のコミュニケーション手段等を確保するため、手話通訳者、要約筆記者※、盲ろう者向け通訳・介助員、点訳奉仕員、音訳奉仕員など専門的知識・技能を有する各種人材を養成します。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ・県意思疎通支援者養成講座の実施 ・県意思疎通支援者登録試験の実施 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 人材育成に向け、養成講座の受講者を増やすことが必要。	障がい者の社会参加を促進するため、引き続き、意思疎通支援者養成講座を実施する。	保健
	○県登録意思疎通支援者数（再掲） ㊦ 104人→㊧ 138人	123人	128人	133人	138人	129人	140人	146人	◎	＜H29→H30計画の改善見直し箇所＞ 【数値目標上方修正】 ○県登録意思疎通支援者数 ㊦ 104人→㊧ 148人		
490	●障がい者のスポーツ・レクリエーション活動や生きがいづくりの支援の強化を図ります。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 障がい者のスポーツ振興を図るため、様々な競技種目において、大会や講演会・教室等へ障がい者スポーツ指導員の派遣・指導をH27は延べ129件、H28は延べ112件、H29は延べ155件実施した。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調	引き続き、障がい者スポーツ指導員の派遣・指導を実施する。	保健
	○人材バンク活用による障がい者スポーツ指導員の派遣・指導件数 ㊦ 110件→㊧～㊨年間110件	110件	110件	110件	110件	129件	112件	155件	◎	＜課題＞ 指導員の派遣・指導について、周知が必要。		

基本目標5「みんなが元気・輝きとくしま」の実現

5-4 いきいき健康とくしまの推進

主要施策：1 「総合メディカルゾーン」 の整備	数値目標 達成状況	委員意見		部局
		評価	特記事項	
		☆☆	B	

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
491	●県民医療の発展と地域医療の再生をめざす医療拠点である「総合メディカルゾーン※」については、隣接する県立中央病院と徳島大学病院を本部、県立三好病院を西部センター、県立海部病院を南部センターとし、それぞれ医療拠点としての充実強化を図るとともに、相互の連携を推進することにより、県下全域の医療の最適化に取り組めます。 <危機・保健・県土・病院>	推進	→	→	→					■医療人材の育成 <H27～H29取組内容と進捗状況> ・初期・後期臨床研修医数 (平成27年度) 【中央病院】 43名 【三好病院】 1名 計44名 (平成28年度) 【中央病院】 43名 【三好病院】 3名 計47名 (平成29年度) 【中央病院】 51名 【三好病院】 3名 計55名 ・新海部病院・地域医療研究センターについては、平成29年1月完成。同年5月の新病院開院とともに、運用を開始。 <計画目標の達成見込み> 順調 <課題> 新たな専門医制度への対応 ■拠点機能向上のための施設整備 <H27～H29取組内容と進捗状況> ・中央病院外構整備工事は、第1期工事が平成28年11月完成、第2期工事は平成29年11月完成 (平成30年度中に、徳島大学病院の外構工事の完成後、中央病院と徳島大学病院との接続工事を行い、エリアが一体化される見込み) ・三好低層棟改修工事については、平成28年10月完成 ・新海部病院の整備については、平成29年1月完成 <計画目標の達成見込み> 順調 (次ページへ続く)	■医療人材の育成 研修医確保については、徳島大学病院や県医師会等との連携・協力により、高度な知識や技術・経験を持つ指導医や専門医を養成するなど、優れた医師の育成・医療の質の向上を推進するとともに、次の世代の研修医を育てる医師育成サイクルを構築し、今後一層の医療人材の育成・確保に努める。	危機 保健 県土 病院
	医療人材の育成 ○県立病院における初期・後期臨床研修医数 【主要指標】 ㉔31名→㉕55名	38名	42名	48名	55名	44名	47名	55名	◎			
	○海部病院・地域医療研究センターの充実					工事 施工中	完成		—			
	拠点機能向上のための施設整備 ○中央病院（本部）の整備 ㉗外来駐車場整備等着手→㉘整備完了	着手	整備 完了			着手	工事 施工中	完成	○			
	○三好病院（西部センター）の整備 ㉔低層棟改修工事着手→㉗工事完了 ㉗外来駐車場整備等着手・完了	完了				工事 施工中	完成		○			
	○海部病院（南部センター）の整備 ㉔建築工事着手→㉕完成		完成			工事 施工中	完成		◎			

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
	医療提供体制の充実 ○救急医療、小児医療、周産期医療、地域医療及びがん医療等の医療提供体制の整備					整備	整備	整備	◎	（前ページの続き） ■医療提供体制の充実 ＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ・救急医療（H27～H29救急患者数） 中央（3次救急医療機関） H27 18,248人 H28 17,701人 H29 16,107人 三好（3次救急医療機関） H27 8,022人 H28 7,129人 H29 7,678人 海部（2次救急医療機関） H27 3,247人 H28 3,397人 H29 3,133人 ・小児医療（H27～H29小児救急患者数） 中央（小児救急拠点病院） H27 4,380人 H28 4,313人 H29 3,612人 ・周産期医療 中央（地域周産期母子医療センター） NICU稼働率 H24 54.6% → H27 80.5% H28 84.4% H29 79.4% ・地域医療（へき地医療） 3病院（へき地医療拠点病院） 応援診療 → H27 1,075回 H28 1,210.5回 H29 994.5回 ・H28.12那賀町、牟岐町、美波町、海陽町の4町と「医療提供体制『海部・那賀モデル』推進協定書」を締結した。 ・海部病院から海部・那賀地域の町立病院・診療所に対し、医師を派遣して診療を支援するとともに、医療従事者の研修の受け入れや公立4病院間におけるテレビ会議システムを構築するなど、「『海部・那賀モデル』推進協定」に基づく事業を実施した。 ・がん医療 三好（H27.4月 地域がん診療病院に指定） → H26リニアック、緩和ケア病棟を整備 県内のがん医療の均てん化が図られ、医療体制が整備された。 都道府県がん診療連携拠点病院 徳島大学病院 地域がん診療連携拠点病院 徳島県立中央病院、徳島赤十字病院、徳島市民病院 地域がん診療病院 徳島県立三好病院 ＜計画目標の達成見込み＞順調 ＜課題＞ 医師の確保	■医療提供体制の充実 引き続き、総合メディカルゾーン本部（中央病院と徳島大学病院）、「西部センター」、「南部センター」の「機能強化と連携強化」によって、「全県的な医療の質の向上」と「地域医療の再生」を図る。	危機保健 県土病院
	災害対応力の強化 ○災害拠点病院間の連携体制強化 ㊾～㊿訓練等の相互参加 ㊿～㊿災害時備蓄品等の共同購入 ㊿～㊿大規模災害合同訓練の実施					実施	実施	実施	◎	■災害対応力の強化 ＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ・総合メディカルゾーンにおいて、中央病院と大学病院が合同で初の図上訓練（H29.2）、初の実働訓練を実施。（H29.10） ・県立3病院、鳴門病院、徳島赤十字病院の実務担当者等による「災害医療連携検討ワーキング」を開催し、情報共有と具体策の検討を実施。（H27.10） ・上記5病院に徳島大学病院、吉野川医療センター、阿南共栄病院を加えた「メディカルサイト連携タスクフォース」を立ち上げ、「災害医療」に関する情報共有、連携強化を図った。（H29.6、7、H30.3） ・災害拠点病院の災害時の連携を図るため、訓練の相互参加を行った。（H27.6、H27.10、H28.6、H28.9、H28.11、H29.6、H29.10） ・県立病院と鳴門病院で、災害時の備蓄品について、共同購入を実施し、規格統一とコスト削減を図った。（H29.3、H30.3） ・各圏域ごとに開催する広域災害医療訓練に参加し、関係機関との連携体制の確認を実施。（東部H27.10、西部H27.9、H27.10、南部H27.12、西部H28.11、西部H29.10、H29.12、南部H29.12） ・中四国DMAT実動訓練の会場として、DMAT・関係機関と合同訓練を実施。（H30.1） ・移転改築を行った海部病院においては、陸上自衛隊・海上保安庁等によるヘリポート離着陸訓練等を実施。（H29.4、6、8） ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 関係機関との連携強化（次ページへ続く）	■災害対応力の強化 「戦略的災害医療プロジェクト基本戦略（H28.3策定）」に基づく関係機関との連携強化を図る。	

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
	○三好病院の沿岸部への後方支援機能強化 ⑦ドクターヘリＣＳ室の整備、 災害対策本部機能の充実		整備・ 機能の 充実						◎	<p>（前ページの続き）</p> <p>■三好病院の沿岸部への後方支援機能強化 ＜H27～H29取組内容と進捗状況＞</p> <p>※整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波被害の心配がない三好病院において、沿岸部の病院を支援するため、ドクターヘリや支援ヘリの運航調整を行う「ＣＳ室」を整備。(H28. 3) ・災害時の院内拠点として活用できる多目的ホールを整備。(H27. 12) ・外付けアンテナによる衛星携帯電話を追加整備。(H27. 12) <p>※機能充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自衛隊ヘリによる夜間救急搬送訓練を実施。(H27. 10) ・自衛隊ヘリによる救急搬送訓練を実施。(H28. 9、11) ・地域の災害医療関係機関との初の合同訓練を実施。(H28. 11) ・市町、保健所等関係機関と連携した災害時医療訓練を実施。(H29. 12) ・海部病院との間で、衛星電話通信を活用したメッセージアプリ（動画）による情報伝達訓練を実施。(H30. 1) ・公的医療機関 6 病院の担当者による「メディカルサイト連携タスクフォース」を立ち上げ、「災害医療」に関する情報共有、相互連携強化を図った。(H29. 6、7、H30. 3) <p>＜計画目標の達成見込み＞順調</p> <p>＜課題＞ 後方支援機能の充実</p>	■三好病院の沿岸部への後方支援機能強化 引き続き、機能の充実を図る	危機 保健 県土 病院
	ICT（情報通信技術）の活用 ○県立 3 病院の医療情報システムの統一 ⑩システムの一斉更新				一斉 更新	整備方針 策定	基本方針 策定		—	<p>■ICT（情報通信技術）の活用 ＜H27～H29取組内容と進捗状況＞</p> <p>平成 3 0 年度に県立 3 病院のシステム統一化を目指し、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 2 7 年度は、「整備方針」を策定 ・平成 2 8 年度は、更新支援業務のコンサルタント会社を調達するとともに、導入会議を設置し、基本方針及び調達仕様書を作成 ・平成 2 9 年度は、システムベンダを決定し、システム導入作業を実施（平成 3 0 年度に、システム統一化完了見込み） <p>＜計画目標の達成見込み＞順調</p> <p>＜課題＞ システム導入作業の着実な推進</p>	■ICT（情報通信技術）の活用 システム導入作業を確実に推進し、平成30年度にシステム統一化を図る。	

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
492	●県立病院における「新公立病院改革プラン」を策定し、高度・先進医療や救急医療等の政策医療を安定的かつ継続的に推進します。＜病院＞		策定・ 推進	推進	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ・H28.2 「徳島県病院事業経営計画～安心医療・とくしまを支える新県立病院プラン～素案」（新公立病院改革プラン）を県議会へ報告する。 ・H28.4 外部委員からなる「県立病院を良くする会」に説明し意見聴取するとともに、パブリックコメントを実施する。 ・H28.6 県議会へ最終案を報告 「徳島県病院事業経営計画」の策定 ・H29.12 「県立病院を良くする会」において、経営計画の取組状況について、報告し、委員から評価・提言を受ける。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 「徳島県病院事業経営計画」の着実な推進	病院経営を取り巻く環境に的確に対応し、病院事業全体として、安定的かつ継続的な経営基盤構築のため着実に取り組む。	病院
493	●地域がん診療病院である県立三好病院において、県立中央病院との連携により、がん治療体制を強化するとともに、がんに関する各種の情報提供などの普及啓発により、地域のがん患者及びその家族のがんに関する不安の解消に取り組めます。＜病院＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 《H27》（実績値：計18回） 1 公開講座の実施 2 がん緩和ケア研修会等の実施（3回） 3 がんサロンの開催（12回） 4 広報誌等の配布 5 【世界がんの日】ポスター展の開催 《H28》（実績値：計22回） 1 公開講座の開催 2 がん緩和ケア研修会等の実施（7回） 3 がんサロンの開催（12回） 4 広報誌等の配布 5 【世界がんの日】ポスター展の開催 《H29》（実績値：計26回） 1 公開講座の開催（3回） 2 がん緩和ケア研修会等の実施（9回） 3 がんサロンの開催（12回） 4 広報誌等の配布 5 【世界がんの日】ポスター展の開催 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 緩和ケアなどがんに関する各種情報について地域住民への更なる普及啓発が必要。	グループ指定となっている県立中央病院との連携により、医療従事者への研修会を実施することでがん治療体制の強化を図るとともに、地域がん診療病院としてフルセットの各種がん医療が可能である県立三好病院におけるがん治療のブランド化を図る。	病院
	○県民・医療従事者への情報提供 （公開講座、勉強会、広報誌、リーフレットなど） ㊦ 7回→㊰ 30回	18回	22回	26回	30回	18回	22回	26回	◎			

主要施策：2 安全・安心な地域医療体制の充実	数値目標達成状況	委員意見		部局
		評価	特記事項	
	☆☆☆	A		保健

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
494	●県内における地域医療を守るための仕組みを検討するとともに、医師修学資金の貸付や夏期地域医療研修の開催などにより、地域医療を担う医師等の養成・確保を図ります。 また、海部・那賀地域の医師不足に対応するため、移転改築後の海部病院内に、若手医師・医学生の研修・実習の拠点となる地域医療研究センターを開設するとともに、海部・那賀地域の公的医療機関が一体となった医療提供体制（海部・那賀モデル）を構築します。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ○県内の高校生、大学生に対し、3地域での地域医療研修の実施などにより、身近に地域医療を感じてもらうことで、地域医療への関心をより一層高め、将来の人材育成に寄与した。また、平成27年度には12人、28年度には11人、29年度には12人に対して新たに医師修学資金の貸与を行った。 ○海部病院から海部・那賀地域の町立病院・診療所に対し、医師を派遣して診療を支援するとともに、医療従事者の研修の受け入れや公立4病院間におけるテレビ会議システムを構築するなど、「『海部・那賀モデル』推進協定」に基づく事業を実施した。 ＜計画目標の達成見込み＞順調 ＜課題＞ 県外への人口流出や高齢化が進んでいる現状を踏まえ、いかに地域医療を担う人材を確保できるかが課題である。	・県外への人口流出や高齢化が進んでいる現状を踏まえ、継続的に地域医療に関心をもってもらうための活動を行い、地域医療を担う人材の確保に努めていく。 ・医師の収入確保・身分保障・リスクに対する安全確保に努めつつ、海部・那賀地域への医師派遣による人事交流を推進するとともに、システムの構築・活用による人材育成を図る。 ・海部・那賀地域における医療従事者の相互交流を推進するとともに、ネットワークや地域医療研究センターの活用による人材育成を図る。	保健
	○医師修学資金貸与者数（累計）【主要指標】 ㉔59人→㉕95人	70人	80人	90人	95人	83人	94人	106人	◎			
	○地域医療研修の実施地域 ㉔3地域→㉕～㉖3地域	3地域	3地域	3地域	3地域	3地域	3地域	3地域	◎			
	○海部・那賀地域の公的医療機関が一体となった医療提供体制の構築 ㉕構築				構築				—			
495	●「美波町国民健康保険由岐病院」と「美波町国民健康保険日和佐病院」を統合・再編し、高台への移転改築により、災害時における医療提供体制を確保するとともに、美波町における総合的・継続的な医療サービス提供体制の確保を図ります。＜保健＞	→	開院							＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 「美波町国民健康保険由岐病院」と「美波町国民健康保険日和佐病院」を統合・再編し、「美波町国民健康保険美波病院」が平成28年3月1日開院した。 ※美波病院の概要 所在地：美波町田井105-1（由岐IC付近） 構 造：鉄筋コンクリート造3階建（免震構造） 診療科：内科・外科・整形外科・脳神経外科 病床数：50床 救急告示病院、災害医療支援病院指定 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 平時から災害時への対応が円滑に行えるよう病院の体制を強化する必要がある。	災害時における医療提供体制を確保するとともに、美波町とも連携し、地域に根ざした医療サービスの提供を図る。	保健
	○「国民健康保険美波病院」の整備 ㉔開院		開院			開院			◎			
496	●「徳島赤十字病院日帰り手術センター」の整備により、短期入院症例の外来化を図り、急性期病院と地域の医療機関等との連携体制の強化と在宅医療への移行を進めるとともに、外来化により確保した病床をもって地域の医療機関からの紹介患者や救急患者の受け入れを推進します。＜保健＞	→	→	開設						＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 徳島赤十字病院日帰り手術センター等を含む西棟が完成し、H29年11月から診療を開始。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 救急患者及び紹介患者の受入れ増	「徳島赤十字病院日帰り手術センター」の活用による、救急患者及び紹介患者の受入れ増	保健
	○「徳島赤十字病院日帰り手術センター」の整備 ㉔開設			開設			整備中	開設	◎			
497	●阿南医師会中央病院と阿南共栄病院の統合により、新たに設立される「阿南医療センター」を地域包括ケアシステムの中核拠点として整備します。＜保健＞	→	→	開院						＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ○阿南医療センターの整備に向け、建築工事に着手。 ＜計画目標の達成見込み＞ 努力を要する ＜課題＞ 適切な進捗管理	「阿南医療センター」の整備を推進。	保健
	○「阿南医療センター」の整備 ㉔開院			開院			実施設計	建築工事着手	△			

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
498	●看護職員の養成及び県内定着促進・離職防止、再就業の支援を行うため、ナースセンター機能を強化し、地域の実情に応じた看護職員確保対策を推進します。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 1 県内定着促進 修学資金の貸与 (H27:50件 H28:58件 H29:70件) 2 看護の質の向上、早期離職の防止 ①新人看護職員研修 ・病院での研修事業 (H27:16病院 H28:15病院 H29:17病院) ・多施設合同研修会 (H27:16回、625人受講 H28:18回、689人受講 H29:18回、849人受講) ・研修責任者等研修事業等 (H27:13回、406人受講 H28:13回、473人受講 H29:13回、420人受講) ・新人看護職員研修推進協議会 (H27:3回 H28:3回 H29:2回) 3 就業の促進、離職防止対策 ①病院内保育所運営費補助事業 (H27:12施設 H28:11施設 H29:13施設) ②看護職員確保定着事業 ・勤務環境改善推進委員会 (H27:4回 H28:4回 H29:4回) ・勤務環境改善普及啓発研修会・ワークショップ (H27:4回、315人受講 H28:3回、204人受講 H29:3回、252人受講) ・看護職員相談窓口設置 (H27:20件 H28:22件 H29:15件) ③徳島県ナースセンター事業 ・年度末登録求職者数 (H27:180人 H28:280人 H29:371人) ・求職者と求人施設のマッチング 就業者数 (H27:294人 H28:236人 H29:261人) ④就業支援体制強化事業 ・県南部、西部にナースセンターのサテライト展 開 ・エリアマネージャーの配置 (H27:5人、施設訪問377件 H28:5人、施設訪問172件 H29:5人、施設訪問208件) ・出前就職ガイダンス (H27:20施設、45人参加 H28:17施設、39人参加 H29:19施設、43人参加) ⑤看護師等免許保持者の届出制度による届出数 (H27:154件 H28:363件 H29:568件) ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 県内定着促進・離職防止。再就業支援について、 より地域の実情に応じた支援を充実し、潜在化予防 等の対策を推進する必要がある。	更なる看護職員の確保を目指し、総合的な確保対策を推進する。	保健
	○看護職員従事者数 ㉔12,592人→㉕13,312人		13,072人		13,312人		13,080人		◎			
	○60歳以上の就業看護職員数 ㉔1,027人→㉕1,400人		1,270人		1,400人		1,502人		◎			

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
499	●地域の医療提供体制の充実を図るため、徳島大学への寄附講座設置や地域医療支援センターの登録医師確保などにより、県立病院等の医師不足病院における医師・診療科の確保を図ります。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ・H27においては地域医療再生基金、H28においては地域医療介護総合確保基金を活用し、H29においては、新たに「麻酔科診療部」を設置し、6つの「寄附講座」と1つの「委託講座」を設置した。 ・講座の設置により地域医療提供体制を維持し、拠点病院をフィールドとした診療活動等に取り組むことにより、医学生・研修医への教育及び研究活動の充実を図った。 ・臨床研修を終えた医師修学資金貸与者について、H27は1名、H28は4名、H29は4名の地域医療支援センターにおけるキャリア形成プログラムへの登録を行った。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ ・県立病院等の医師・診療科を確保するため、講座医師の活動拠点の充実を図る必要がある。 ・今後、臨床研修を終える地域枠医師へ対応する必要がある。	H30に臨床研修を終える医師について、地域医療支援センターと連携して、引き続き登録数が増加するよう取組を推進する。	保健
	○地域医療支援センター登録医師数 ㉔→㉗17人			5人	17人	1人	5人	9人	◎			
	○徳島大学に県立病院の診療機能を補完する寄附講座の設置 ㉗～㉚推進	推進	推進	推進		設置	設置	設置	◎			
500	●在宅医療を推進するため、在宅患者を訪問し、薬学的管理指導に対応できる薬局の増加を図るとともに、薬剤師資質の更なる向上に取り組めます。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 1 薬剤師を対象とした、「在宅医療に関するスキルアップ研修会」、「在宅医療業務の実地研修」等を実施 2 「くすり健康フェア」等において広報活動を実施 上記の取組により、目標を達成した。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 在宅医療に携わる薬局薬剤師の、更なる資質向上に向けた取組が必要	「地域包括ケアシステムの構築」に向け、在宅医療を推進するため、服薬情報の一元的、継続的把握や医療機関等との連携した「かかりつけ薬剤師」の増加と資質向上に向けた取組を推進する。	保健
	○かかりつけ薬剤師のいる在宅対応薬局の占める割合 ㉔→㉗55%			53%	55%			58%	◎			
501	●少子高齢化が進むことから、血液製剤の安定供給の確保を図るため、これからの献血を支えていく若年層に対し、献血思想の普及を図ります。また、若年層に向けた各種啓発を実施し、献血者の増加を図ります。＜保健＞	支援	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 1 若年層に身近なタウン誌と連携した広報・啓発活動を実施 2 タウン誌等にQRコードを掲載し、携帯電話からのモバイル会員の登録を推進 上記の取組により、目標を達成した。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 若年層人口の減少	若年層の献血者数を増加させるため、若年層に向けたタウン誌による広報やイベント等における啓発を推進する。	保健
	○高等学校の学内における学生の献血受付者数 ㉔177人→㉗～㉚年間200人	200人	200人	200人	200人	303人	427人	321人	◎			
	○献血モバイル会員登録者数 ㉔3,192人→㉗9,500人	4,300人	7,500人	8,500人	9,500人	6,922人	8,676人	10,836人	◎			
502	●地方独立行政法人鳴門病院の運営において、中期計画を着実に推進し、県北部の中核病院としての充実、地域の医療水準の向上を図ります。＜保健＞	推進	策定	推進	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ・中期計画を着実に推進するとともに、第2期中期計画を策定した。【H28】 ・県北部をはじめ香川県東部や兵庫県淡路島地域の政策医療を担い、地域の中核的かつ急性期病院として重要な役割を果たしている。 ・地域への社会的貢献について、院内の糖尿病教室、地域の医療フォーラム、出前講座、ケーブルテレビや病院広報誌などを通じ、院内外で医療・健康に関する啓発活動などに取組んだ。 ・機能強化を計画的かつ積極的に支援するため、県が病院に対して、長期貸付制度を構築した。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 安定した経営基盤の強化に向け、更なる取組が必要。	平成30年度より、病院が行う、医療機器の導入や更新、施設整備を行う際の資金について、県が病院に対して、長期貸付を行い、病院から県に対し、償還する。また、その償還額の2分の1について、県が鳴門病院に対し、運営費交付金を交付する仕組みを実施し、経営基盤の安定化を図っていく。	保健
	○次期「中期計画」の策定・推進 ㉚策定		策定				策定		◎			

主要施策：3 がん対策の推進	数値目標 達成状況	委員意見		部局
		評価	特記事項	
	☆☆	B		
				保健

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
503	●「がん診療連携拠点病院」等の空白医療圏をなく すため、国指定がん診療連携拠点病院等がある2次 医療圏域を増やすことにより、がん診療体制の整備 の充実を図るとともに、地域連携クリティカルパス ※の推進等により、身近な地域で本人の意向を尊重 した「がん治療」が受けられる環境づくりを進める とともに、がん検診の受診率の向上による死亡者の 減少と治療の初期段階からの緩和ケアの実施による がん患者及びその家族の療養生活の質の維持向上を 図ります。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 1. 徳島県立三好病院を「地域がん診療病院」に指 定 西部医療圏において「地域がん診療病院」が指 定され、県内のがん医療の均てん化が図られた。 2. 「治療の記録ノート」の配布 がん診療拠点病院等で治療後も、切れ目なく地域 の医療機関で治療を受けられるよう医療連携の促進 を行った。 3. がん検診の受診促進 ・早期発見・早期治療につながるがん検診の受診促 進のための啓発活動を実施 ・ピンクリボンイベント（10月乳がん啓発月間） ・小、中、高校への出前講座（H27：14校2,056人、 H28：14校1,945人、H29：9校1,887人） ・大学等の学園祭等でのメッセージカード作成 （H27：6回、H28：5回、H29：9回） 4. 緩和ケア研修会の開催 がん医療に携わる医師の受講（修了者数：延べ 945名が受講） 5. がん患者就労支援モデル事業：新たに就労を開 始するがん患者・経験者数：3名（H27事業終了）	がん検診受診促進を行うため、市町村や関係機 関及び「徳島県がん検診受診促進事業所」と連携 して、官民一体となつてがん検診受診率向上の啓 発を行う。 特に、職域におけるがん検診の受診促進には事 業所内の経営者の理解と協力が不可欠なことか ら、協会けんぽ等と連携し、がん検診の受診促進 を積極的に行う。	保健
	○がんの75歳未満年齢調整死亡率 （人口10万対）【主要指標】 ㉔76.6（全国80.1 15位） →㉕65.3 <暦年>	70.6	68.8	67.1	65.3	73.0	73.3	H31.1頃 確定予定	△	＜計画目標の達成見込み＞ 達成可能 ＜課題＞ がん検診の受診促進を行うには、まず県民への理 解が不可欠である。がんに関する正しい知識やがん 検診の必要性の啓発を更に推進する必要がある。		
	○国指定がん診療連携拠点病院等がある 2次医療圏域数（県内3圏域） ㉔2圏域→㉕3圏域	3圏域	3圏域	3圏域	3圏域	3圏域	3圏域	3圏域	◎	＜H29→H30計画の改善見直し箇所＞ ●「がん診療連携拠点病院」等の空白医療圏をなく すため、国指定がん診療連携拠点病院等がある2次 医療圏域を増やすことにより、がん診療体制の整備 の充実を図るとともに、地域連携クリティカルパス の推進等により、身近な地域で本人の意向を尊重し た「がん治療」が受けられる環境づくりを進めると ともに、働き盛り世代を中心としたがん検診の受診 率の向上による死亡者の減少と治療の初期段階から の緩和ケアの実施によるがん患者及びその家族の療 養生活の質の維持向上を図ります。		
	○がん検診受診率の向上 ㉔胃35.1％、大腸33.5％、 肺39.5％、乳房33.1％、 子宮31.9％ →㉕胃・大腸・肺当 faced 40％、 乳房・子宮50％						胃34.8％ 大腸33.5％ 肺41.2％ 乳41.3％ 子宮39.0％		—			
	○がん患者支援団体等が行う事業で働く がん患者・経験者の延べ人数 ㉔—→㉕25人	10人	15人	20人	25人	10人	15人	20人	◎			
504	●「徳島がん対策センター」において、県内のがん 医療における在宅医療や、がん患者及びその家族に 対する支援を推進します。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 1 在宅緩和ケアに関する県民公開講座の開催 平成27年8月17日・22日、平成28年1月31日、 平成28年6月12日、平成29年2月18日、 平成29年11月26日、平成30年3月21日 2 がん患者相談 電話・訪問でがん患者とその家族のあらゆる悩みの 相談に応じた。 3 徳島がん対策センターホームページの運営 ホームページのデザインをリニューアルし、内容 の更新・充実を図り、がん医療の情報発信を実施し た。 県内の在宅のがん医療の適切な支援を行うた め、関係機関と連携し、在宅緩和ケアに関する県 民公開講座を開催する。 また、県が一元化して情報発信している「徳島 がん対策センター」のホームページやがんに関す るあらゆる悩みに対応できる相談窓口の周知を行 い、がん患者やその家族が安心して生活できよう 支援を推進する。	保健	
	○在宅緩和ケアに関する研修会の参加者数 ㉔155名→㉕320名	215名	245名	315名	320名	310名	249名	318名	◎	＜計画目標の達成見込み＞ 順調		
	○徳島がん対策センターにおける相談件数 ㉔149件→㉕300件	210件	240件	270件	300件	232件	253件	290件	◎	＜課題＞ がん医療の情報発信及び相談業務を一元化して実施 しているが、より多くのがん患者が利用できるよう 啓発が必要である。		
	○ホームページへのアクセス件数 ㉔68,837件→㉕88,000件	75,900 件	79,700 件	83,700 件	88,000 件	75,071 件	80,003 件	84,517 件	◎			

主要施策：4 救命救急医療体制の充実	数値目標 達成状況	委員意見		部局
		評価	特記事項	
	☆	C		保健

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
505	●小児救急電話相談事業（＃８０００）の利用促進のための周知を図るとともに、＃８０００を活用し、すぐに病院にかかる必要がある小児患者の情報を医療機関等に提供するモデル事業を実施し、安心して子育てができる環境整備を図ります。（再掲）＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 子どもの急な病気やけがで心配なとき、看護師や小児科医が電話でアドバイスする「徳島子ども救急電話相談（＃８０００）」の周知用パンフレットを作成し、市町村等へ配布するとともに、「おぎやうと２１」会場で、直接、保護者に配布した。 また、平成２７年度に実施したモデル事業の検証を行い、より県民ニーズを捉えた取組として、相談件数の多い時間帯の電話回線を２回線に増設し、環境の充実を図った。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 数値目標は達成しているが、引き続き周知・啓発に努める必要がある。	子育て支援関係機関と連携し、周知方法を検討するなど「＃８０００」の認知度向上・利用促進に努めるとともに、より利便性の高いサービスを提供できるよう引き続き検討を行う。	保健
	○＃８０００の認知度【主要指標】 ㉔→㉔８０％	50%	60%	70%	80%	71%	78%	85%	◎			
	○＃８０００の相談実績 ㉔ 7, 927件→㉔ 9, 500件	7, 950件	8, 050件	9, 400件	9, 500件	9, 226件	9, 654件	9, 990件	◎			
	○「＃８０００」徳島子ども救急電話相談の新システムスタート ㉔実施	実施				モデル事業実施	モデル事業の検証	一部実施（回線増設）	○			
506	●県下全域におけるドクターヘリの運航に加え、近隣県におけるドクターヘリとの相互応援や消防防災ヘリとの連携による、二重・三重のセーフティネットを充実し、救急患者の救命率の向上や後遺症の軽減を図ります。また、ドクターヘリの臨時離着陸場（ランデブーポイント）の整備充実を図ります。＜保健＞	運航	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 年に２回県内の各消防本部あて（非常備消防町村においては当該町村あて）に臨時離着陸場の追加推薦依頼を行っており、これによりH27年度は３箇所、H28年度は８箇所、H29年度は10箇所が新たに追加され、H29年度末で合計２４４箇所を確保している。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 特に中山間地域においては、ドクターヘリの有用性・必要性が高いことから、今後も当該地域を中心として、臨時離着陸場の適地を探すことが必要である。	今後も救命率向上に向けた治療開始時間及び搬送時間の短縮を図るとともに、きめ細かなドクターヘリの運航を確保するため、市町村や消防など関係機関との連携を一層推進し、更なる臨時離着陸場の拡充に取り組む。	保健
	○臨時離着陸場数 ㉔ 218箇所→㉔ 250箇所	225箇所	235箇所	245箇所	250箇所	226箇所	234箇所	244箇所	○			
507	●緊急な医療を必要とする精神障がい者等が、迅速かつ適切な医療を受けられるよう、引き続き精神科救急医療体制の確保を図ります。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 精神科救急医療体制連絡調整委員会を開催し、精神科病院と警察・消防等との連携体制強化を図った。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 精神科病院と警察・消防等との連携体制をより強化する必要がある。	引き続き、精神科救急医療体制の確保・強化に取り組む。	保健

主要施策：5 健康寿命の延伸	数値目標 達成状況	委員意見		部局
		評価	特記事項	
	☆☆	B		保健・県土

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
508	●「すべての県民が共に支え合い、心身ともに健康で幸せに暮らせる徳島づくり」を実現するため、関係機関・団体と連携を図りながら「徳島県健康増進計画（健康徳島21）」を推進します。 また、正しい「健・幸・食」情報を発信する「食のコンシェルジュ」を全県的に拡大展開し、『「食」から徳島を元気に!』を合い言葉に、「食べること」から元気で活力ある「とくしまづくり」を推進します。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ・「健康徳島21（徳島県健康増進計画）」の推進のため、平成27年度に中間評価を実施し、平成28年度には最終評価に向けて県民健康栄養調査を実施した。平成29年度には計画の最終評価と、計画期間を平成30年度から平成35年度とする「健康徳島21～2018改定版～」をとりまとめた。 ・「健康徳島21」に基づく具体的な取組について、 ○ 食対策：関係機関と連携した正しい食情報の発信及びバランスのとれた食事や野菜たっぷりレシピ集の作成 特に野菜摂取量アップ対策においては、野菜摂取量アップ専門部会や担当部局検討会において、各団体や各部署の連携による効果的な取組を検討・実践することにより、若い世代や働き世代、農産市への啓発等連携先を拡大し、県内全域で1日の摂取目標量350gや簡単な摂り方の正しい食情報の発信に取り組んだ。 ○ 運動対策：阿波踊り体操の普及やウォーキング協会との連携により運動習慣定着に向けた取組 ○ 環境整備：健康とくしま応援団の登録促進やチャレンジカード普及等 ○ 生活習慣病の発症予防や重症化予防：医師会、栄養士会等との連携による取組 等 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調	改定した「健康徳島21」に基づき、各種施策の推進を図る。	保健
	○健康寿命の延伸【主要指標】 ㉒→㉓平均寿命と健康寿命の差の縮小 男 9.54（全国 9.13） 女 13.48（全国 12.68）			差の縮小	-	男 9.16 女 12.71 （県独自で算出）	-	◎				
	○「健康とくしま応援団」のうち、野菜摂取量アップ対策及び食環境づくりに取り組む事業所数（累計） ㉔683事業所→㉕1,000事業所	820事業所	880事業所	940事業所	1,000事業所	885事業所	925事業所	986事業所	◎			
	○野菜摂取量アップ対策に取り組む事業所（食のコンシェルジュ）が所在する市町村数 ㉖18市町村→㉗24市町村（全県展開）	20市町村	24市町村	24市町村	24市町村	24市町村	24市町村	24市町村	◎			
	○「徳島県健康増進計画」の推進 ㉗～㉙推進	推進	推進	推進	推進	推進	推進	推進	◎			
509	●県内における糖尿病死亡率の改善をはじめ、スポーツやレクリエーションを通じ、県民の健康増進を図るため、西部圏域の拠点として、「西部健康防災公園」の整備を推進します。＜県土＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ○平成27年度は、公園の基本設計を実施 ○平成28年度は、 ・公園施設の実施設計 ・西部防災館（本館）工事着手 ○平成29年度は、 ・西部防災館（本館）工事推進 ・健康増進施設（物資集積施設）工事に着手 ・三好市と美馬市を結ぶ園内の連絡道路を完成 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 特になし ＜H29→H30計画の改善見直し箇所＞ 【数値目標】 ○西部健康防災公園の整備 ㉚健康増進施設の着工・ ㉛健康増進施設の完成	○西部防災館（本館）平成30年4月22日開館。健康増進施設（物資集積施設）は平成30年内完成予定。	県土
	○西部健康防災公園の整備 ㉚健康増進施設の着工		着工				着工		◎			

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
510	●介護予防に重点を置いた健康づくりを推進するため、介護予防リーダーの継続的な養成を図るとともに、各市町村に設置している介護予防活動推進協議会を核として介護予防リーダーの活動の場づくりを推進します。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 各市町村の老人クラブの会員等を対象として県内3箇所（中央・南部・西部）において研修を実施し、地域において介護予防活動を実践する「介護予防リーダー」を養成するとともに、「介護予防リーダー」の更なるスキルアップを図るため、技能向上研修を行った。 また、県内8市町村において介護予防リーダー活用促進事業を実施し、「いきいき百歳体操」や「認知症予防の講習」などにおいて、介護予防リーダーの積極的な活用を図った。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 引き続き、「介護予防リーダー」の技能向上や、各地域の健康づくり行事等での企画運営への参画などの活躍の場の拡大に努める必要がある。	引き続き、技能向上研修や介護予防活動推進モデル事業を実施し、「介護予防リーダー」の技能向上と活躍の場の拡大に努める。	保健
	○「介護予防リーダー」活用促進事業による介護予防リーダー活動実績人数（累計） ㉔→㉙980人			490人	980人			810人	◎			
511	●生活習慣の改善を通じて生活習慣病の発症や重症化の予防等を推進することにより、三大疾病である「がん、心疾患、脳卒中」の死亡率改善を図ります。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 「健康徳島21」に基づき、生活習慣病対策として検診の受診勧奨、生活習慣改善の普及啓発を実施。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 過去の実績から目標設定を行ったが、救急医療などの体制強化により、死亡率が減少していることから目標の修正が必要。	引き続き、健診の受診勧奨と生活習慣改善の普及啓発に取り組む。	保健
	○三大疾病による壮年期死亡率（壮年期人口10万対） ㉔164.1→㉙151.1 <暦年>	158.9	156.3	153.7	151.1	148.2	140.3	H31.1月 頃判明	◎			
512	●喫煙習慣の改善、受動喫煙防止対策を推進することにより、長期の喫煙習慣が主な原因であるCOPD（慢性閉塞性肺疾患）の死亡率改善を図ります。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 1 毎年5月、禁煙週間に係る1週間程度、県庁1階県民ホールにおいて啓発ポスターの掲示 2 COPDの認知度に係るe-モニターアンケートの実施 3 COPD認知度向上のための取組み ・各保健所での啓発及び県民公開講座等の実施 ・ポスター・チラシを作成、医療機関等、関係機関へ配布した。 4 「徳島県健康増進計画」の中間評価や、平成30年度を始期とする「健康徳島21（第二次）」の改定とりまとめを通じ、受動喫煙防止対策を検討した。 ＜計画目標の達成見込み＞ 努力を要する ＜課題＞ COPD認知度向上が進んでいないため、関係機関と連携し、啓発活動を推進する必要がある。 ＜H29→H30計画の改善見直し箇所＞ ●喫煙習慣の改善等、働き盛り世代を中心として受動喫煙防止対策を推進することにより、長期の喫煙習慣が主な原因であるCOPD（慢性閉塞性肺疾患）の死亡率改善を図ります。	平成30年度も引き続き、「COPD認知度向上対策事業」実施により、「企業の健康経営を推進」、「早期受診・早期治療対策」、「受動喫煙防止対策の推進」を柱として、COPD認知度向上に向け、あらゆる機会を用いて普及啓発を行っている。	保健
	○COPDの認知度（内容を知っている）の向上 ㉔20%→㉙50%	30%	35%	40%	50%		19.4%	H30.10月 頃判明	△			
513	●「徳島県アルコール健康障がい対策推進計画（仮称）」を策定し、アルコール健康障害の発生、進行及び再発の防止を図り、県民の健康の保持増進と、安心して暮らすことのできる徳島づくりを推進します。＜保健＞	策定	推進	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 計画をH28年度に策定したが、H28年度に実施した県民健康栄養調査の集計結果の反映等のため、H29年度に計画を改定した。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ アルコール健康障がいに関わる様々な機関が、計画を推進する必要があるため、計画の周知、広報を進める必要がある。 ＜H29→H30計画の改善見直し箇所＞ ●「徳島県アルコール健康障がい対策推進計画」を策定し、アルコール健康障がい発生、進行及び再発の防止を図り、県民の健康の保持増進と、安心して暮らすことのできる徳島づくりを推進します。	関係機関への計画の周知を進め、各段階に応じたアルコール健康障がい対策を推進していく。	保健

主要施策：6 糖尿病対策の推進	数値目標 達成状況	委員意見		部局
		評価	特記事項	
		☆	C	

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
514	●糖尿病をはじめとする生活習慣病対策を推進するために、「みんなでつくろう！健康とくしま県民会議」を推進母体として、県民総ぐるみによる健康づくり運動を展開し、県民一人ひとりの健康意識の向上を図ります。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ・みんなでつくろう！健康とくしま県民会議 ○全体会(1回) ○幹事会(1回) ・糖尿病対策については、平成27年度は高校生による糖尿病予防啓発劇や小・中・高校生等を対象とした標語コンクールを実施することで、若い世代への啓発強化に取り組み、平成28年度、29年度はその成果物を活用した啓発媒体の作成、普及に取り組んだ。 ・さらに平成28年度は、治療中断者や医療機関未受診者対策の充実を図るため、徳島県医師会、徳島県医師会糖尿病対策班、徳島県保険者協議会、徳島県の4者連携の「糖尿病性腎症重症化予防プログラム」を策定し、平成29年度は、昨年度策定した「糖尿病性腎症重症化予防プログラム」に基づき、関係団体との連携推進に取り組んだ。	関係機関と連携し、企業の健康経営を推進し、働き盛り世代への取組みを強化するとともに、発症、重症化予防の両面から更なる取組推進に努める。	保健
	○糖尿病粗死亡率【主要指標】 ㉔全国最下位→㉗～㉙全国最下位からの脱出 ＜暦年＞	全国最下位からの脱出	全国最下位からの脱出	全国最下位からの脱出	全国最下位からの脱出	43位	40位	47位	△			
	○特定健康診査・特定保健指導の実施率の向上 ・特定健康診査の受診率 ㉗42.9%→㉙70% ・特定保健指導の実施率 ㉗28.6%→㉙45%			70%		46.5%		31年 8月頃 判明	—	＜計画目標の達成見込み＞ 達成可能 ＜課題＞ 糖尿病粗死亡率は、全国と比較して高い状況にあり、再び、全国最下位となった。		
515	●糖尿病患者の重症化・合併症の予防を推進するため、「かかりつけ医」と「糖尿病専門治療機関等」との間で「糖尿病連携手帳」を活用し、糖尿病患者が効果的・効率的な治療・指導を円滑に受けられる体制整備の充実を図ります。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 県医師会や各保健所と連携し、糖尿病連携手帳活用に向けた検討会や研修会を実施した。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 引き続き、「糖尿病連携手帳」の活用を普及促進することで、糖尿病患者が効果的な治療や指導を受けられる体制づくりを行う必要がある。	引き続き関係機関と連携し、「糖尿病性腎症重症化予防プログラム」の推進はもとより、糖尿病患者が効果的・効率的な治療・指導を受けられる体制について検討する。	保健
	○糖尿病の診療を行っている医療施設（327施設）のうち、「糖尿病連携手帳」を活用している施設数 ㉔131施設→㉙170施設	139施設	143施設	165施設	170施設	160施設	181施設	202施設	◎			
516	●運動習慣の定着や身体活動の増加を目指すため、ウォーキングなどに取り組みやすい環境整備を推進することにより、糖尿病をはじめとする生活習慣病予防を図ります。 ＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 世界糖尿病デーにあわせて11月初旬にブルーライトウォーキングを実施したほか、県策定ウォーキングマップ等を活用したウォーキング大会の3回以上参加者を顕彰することにより、運動習慣の定着及び運動不足の解消を推進している。 ＜計画目標の達成見込み＞順調 ＜課題＞ 糖尿病をはじめとする生活習慣病を予防するためには、運動習慣の定着及び身体活動増加を目指し、環境整備の推進を更に継続する必要がある。	引き続き運動に取り組みやすい環境整備を図り、運動習慣の定着及び運動不足の解消を推進する。	保健
	○ウォーキング・ラリーへの参加者数 ㉔2,459人→㉗～㉙年間2,500人	2,500人	2,500人	2,500人	2,500人	2,544人	2,500人	2,655人	◎			

主要施策：7 食育の推進	数値目標 達成状況	委員意見		部局
		評価	特記事項	
	☆	C		農林・教育

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
517	<p>●「元氣なあわっ子憲章」を制定し、子供たちが健康について学び、自ら考え、実践できるよう、学校・家庭・地域・専門機関等が連携して取り組みます。特に、子供たちの望ましい生活習慣の定着を図るため、すべての小中高校で生活習慣改善計画を策定し、実践に取り組むことにより、肥満予防・肥満対策、生活習慣病予防対策を推進します。</p> <p>さらに、地場産物を活用した学校給食の推進や、食に関する指導の充実のために、栄養教諭の配置を拡充し、徳島の産物や食文化への理解を深めるなど、徳島ならではの魅力ある食育を推進します。＜教育＞</p>	推進	→	→	→					<p><H27～H29取組内容と進捗状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本県の子供たちの生活習慣改善、肥満予防・肥満対策を推進するため、制定した「元氣なあわっ子憲章」の普及啓発を図った。 ・すべての学校で「生活習慣改善計画」を作成し、年間を通じてその実践に取組み、児童生徒の生活習慣の改善を推進した。中高では「健康力アップ30日作戦」、小学校では「体力アップ100日作戦」として、児童生徒が自ら目標を立て、生活習慣改善に取り組んだ。 ・PTAや教職員を対象とした運動習慣や生活習慣に関する講習会等に指導者を派遣するほか、県医師会との連携により「肥満傾向児に対する二次検診」を実施した。 ・栄養教諭・学校栄養職員が、担当市町村内の小学校で3つの学年、中学校で2つの学年において、担任教諭等とともに「食に関する授業」を実施した。 ・学校給食に地域の食材を活用する「学校給食用レシピ&調理技術マニュアル集」の作成など地場産物の活用を推進した。 ・小中学校への栄養教諭について、平成27年4月1日現在で52名、平成28年4月1日現在で54名、平成29年4月1日で57名を配置し、食に関する指導の充実を図った。 ・平成28年度実施の採用審査から栄養教諭の新規採用を開始した。（H28実施：3人、H29実施：3人） ・特別選考を実施し、栄養教諭の任用を推進した。（H27実施：8人、H28実施：2人、H29実施：4人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島の未来を担うすべての子供たちの健康づくりを目指して「元氣なあわっ子憲章」について、広く県民に周知を図る。 ・肥満傾向児については、県医師会等専門家の意見を取り入れながら、H30年度も引き続き、全ての学校で生活習慣改善の取組を実施する。 ・県内2箇所で開催健康道場を開催し、家庭での生活習慣改善取組の支援を図る。 ・学校給食における地場産物の活用について、継続して推進する。 ・新規採用審査及び特別選考により栄養教諭の任用を進め、学校給食の推進と食に関する指導の充実に向けて配置を拡充する。 	教育
	○「元氣なあわっ子憲章」の制定 ㉗制定	制定				制定			◎			
	○肥満傾向の児童生徒数（小中学校）【主要指標】 ㉔5、437人→㉓H25年度比8%減	2%減	4%減	6%減	8%減	4.7%減	5.3%減	4.6%減	△	<p><計画目標の達成見込み> 達成可能</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国的にみて、本県の子供たちの肥満傾向児の出現率が依然として高い状況にある。 ・学校だけでなく、保護者や家庭の果たす役割も重要であり、更なる働きかけが必要である。 ・肥満傾向児の出現率については、昨年に比べ小学校の新入生などで増加しており、実績低下の一因となっている。今後も発達段階に応じた取組を推進が必要である。 ・小中学校への栄養教諭の配置について、大学等関係機関への働きかけ等、採用志願者増に向けての取組を継続する必要がある。 		
	○学校給食に地場産物を活用する割合 過去10年間の平均32.7% →㉗→㉓35%	35%	35%	35%	35%	36.5%	43.2%	42.1%	◎			
	○小中学校への栄養教諭の配置人数 ㉔49人→㉓60人	52人	54人	57人	60人	52人	54人	57人	◎			
	○栄養教諭・学校栄養職員による 食に関する授業を実施する学年の割合 ㉔11.1%→㉓55.5%	33.3%	44.4%	55.5%	55.5%	33.3%	44.4%	55.5%	◎			

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
518	●学校や地域における食育を効果的に進めるため、食育推進活動の実践や地産地消料理の普及を担う、中・高校生ジュニアリーダーや大学生等の若手リーダーを育成します。 ＜農林＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ (H27) ・「とくしま食育推進プロジェクト事業」において、働く女性や子育て世代及び大学生に対する食育・地産地消を啓発する委託事業を実施。 また、高校生、大学生を対象とした食に関する「食育カフェ」「ワークショップ」や、徳大食育サークルによる大学生向けの料理教室を開催し、参加者をジュニア・若手食育リーダーに認定。 (H28) ・「とくしま食育推進協議会」が実施主体となり「『和食』と地域食文化継承推進事業」を活用し、料理教室及び講習会を実施。参加者をジュニア・若手食育リーダーに認定。 (H29) ・「地域の魅力再発見食育推進事業」を活用し、中・高・大学生等を対象にした料理教室を開催し、参加者をジュニア・若手食育リーダーに認定。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 中・高・大学生など若い世代がより食育に関心を持ってもらえるような仕組み作りが必要	とくしま食育推進協議会や食育推進ボランティア、各市町村や他部局と連携を図りながら、県内の食育推進活動団体の取組を支援し、参加者に対するジュニア・若手食育リーダー認定を実施	農林
	○ジュニア・若手食育リーダー数 ㉔→㉔200人	50人	100人	150人	200人	63人	109人	181人	◎			
519	●中食・外食を利用して手軽に県産農林水産物を食べていただくため、地産地消に積極的な飲食店や弁当・惣菜店の登録を進めます。＜農林＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ・県ホームページで地産地消協力店の取組を周知するとともに、未登録店舗に対しては地産地消への協力を呼びかけ、個別にPRを行った。 地産地消協力店と連携したスタンプラリーを実施。 (H28) ・SNSを活用した地産地消協力店との連携イベントの実施により、県産食材の魅力PRと消費拡大を図った。また、若い女性をターゲットにした若者向けカフェを中心に協力店への登録を推進した。 (H29) 上記の取組により、目標達成には至っていないが、平成30年度に入り22店が新規登録済み。 (登録店数の推移) ～平成25年度：97店（累計） 平成26年度：10店（累計107店） 平成27年度：22店（累計129店） 平成28年度：9店（累計138店） 平成29年度：8店（累計146店） ＜計画目標の達成見込み＞ 達成可能 ＜課題＞ 新規開店店舗等への登録後のメリット等も含めた周知活動が必要	・未登録店に対し引き続き周知及び登録を実施する。 ・地産地消協力店と連携し、県内外の方を対象にとくしまの食や文化を楽しめるイベントを実施。消費者及び登録店舗に対し、PRを行う。 ・県公式HP「とくしまの食育応援団」において、食育・地産地消に関わる情報を発信し、地産地消協力店数の増加を推進するとともに、県公式facebook「阿波ふうど」等も活用し、情報発信力の強化を図る。	農林
	○とくしま食巡りの店、働くパパ・ママ食の応援店数 ㉔97店→㉔200店	125店	150店	175店	200店	129店	138店	146店	△			
520	●県民運動として計画的な食育推進を図るため、「第3次徳島県食育推進計画」を策定するとともに、一体的な推進のため、全市町村における食育推進計画が切れ目なく策定されるように働きかけます。＜農林＞	策定	推進	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ・平成28年3月に「第3次徳島県食育推進計画」を策定（H27） ・第3次徳島県食育推進計画に基づき、関係機関・団体等の横断的な連携を目的に、「とくしま食育推進協議会」を設立し、食育に関する講演会や料理教室を盛り込んだ食育フェスタを実施（H28、H29） ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 市町村食育推進計画については、全市町村で切れ目ない計画策定に向けた働きかけの継続的実施	本計画に基づき、各関係機関・団体等が横断的に連携した県民運動としての食育のさらなる推進を図る。 また、市町村食育推進計画については、県下一円での食育推進に向け、計画が切れ目なく策定されるよう、引き続き働きかけを行っていく。	農林
	○「第3次徳島県食育推進計画」の策定 ㉔策定	策定				策定			◎			

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
521	●料理コンクール等で募集した地産地消料理や伝統料理レシピを広く普及するため、料理検索サイト等への掲載や、ホームページ「とくしま食育応援団」を拡充するとともに、内容の充実を図っていきます。＜農林＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ・料理コンクール等により地産地消の実践的レシピを募集、食育推進ボランティアや学校給食等での活用、普及を促進（H27、H28、H29） ・料理検索サイト（クックパッド）に県産食材を用いた料理や郷土料理のレシピを掲載し、地産地消料理や郷土料理の普及を促進（H27、H28、H29） ・食育、地産地消推進ＨＰ「とくしま食育応援団」に産直市ＨＰ「あわちよく．ＷＥＢ」を統合・拡充し、食育・地産地消・産直市を一体的に発信（H27、H28、H29） ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 食育・地産地消に関わる関係団体等と連携し、さらなる効果的な情報発信の実施	引き続き、県ＨＰ「とくしま食育応援団」及び料理検索サイトの内容充実を図り、地産地消料理や郷土料理のレシピを広く普及していく。	農林

主要施策：8 歯科保健の充実	数値目標 達成状況	委員意見		部局
		評価	特記事項	
	☆☆☆	A		保健

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
522	●県民の健康な歯と口腔を保つため、「笑顔が踊るとくしま歯と口腔の健康づくり推進条例」に基づき「徳島県歯科口腔保健推進計画」を推進し、県民自らの日常生活における歯と口腔の健康づくりに係る取組を促進するとともに、生涯にわたる健康の保持増進に大きく影響する乳幼児期等の歯科保健対策を推進します。＜保健＞	推進	→	→	→					<p><H27～H29取組内容と進捗状況></p> <p>乳幼児期から高齢期に至る各ライフステージの特性に応じた歯科保健の充実に取り組んだ。</p> <p>○乳幼児期 徳島県母子保健マニュアルを改訂し、う蝕予防対策を充実させるとともに指導に携わる市町村職員等への周知を行い、指導内容の充実を図った。また、保育所等において健康教育を実施し、歯科保健への関心を高めるよう取組を行った。</p> <p>○成人期、高齢期 定期歯科健診の重要性を啓発するとともに、歯周病対策として事業所や高齢者施設において正しいブラッシング方法の指導を行った。</p> <p>※実績値については、県民健康栄養調査及び国の歯科疾患実態調査に併せて前倒しで実態調査を実施し、平成28年度の実績を捕捉することとした。</p> <p><計画目標の達成見込み>順調</p> <p><課題> 引き続き、乳幼児期の歯科保健対策に重点を置き、ライフステージに応じた取組を促進し、県民の歯科保健に関する意識・知識の向上を図る必要がある。</p>	健康寿命の延伸を図るため、よい歯の親と子を選賞する「親と子のよい歯のコンクール」を開催し、乳幼児期の歯科保健対策を推進するとともに、高齢期や成人期に対しても、関係機関と連携し、引き続き定期歯科健診の受診促進等歯科保健指導を実施し、生涯にわたる歯科保健の充実に取り組む。	保健
	○80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の増加【主要指標】 ㉔24.7%→㉕30.0%			30%		—	36.7%	(前倒しでH28実績を捕捉)	◎	<p><H29→H30計画の改善見直し箇所></p> <p>●県民の健康な歯と口腔を保つため、「笑顔が踊るとくしま歯と口腔の健康づくり推進条例」に基づき「徳島県歯科口腔保健推進計画」を推進し、県民自らの日常生活における歯と口腔の健康づくりに係る取組を促進するとともに、生涯にわたる健康の保持増進に大きく影響する乳幼児期等の歯科保健対策を推進します。</p>		
	○3歳児でう蝕のない者の増加 ㉖74.8%→㉗81.3%	77.4%	78.7%	80.0%	81.3%	75.6%	79.9%	H31.3頃 判明予定	◎	<p>生活に向け、健康寿命の延伸を図るために、ライフステージに応じた歯科保健対策を推進します。</p>		

主要施策：9 感染症対策の充実強化	数値目標 達成状況	委員意見		部局
		評価	特記事項	
		☆☆☆	A	

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
523	●感染症のまん延を防止するため、感染症の発生動向を早期かつ的確に把握、分析し、地域に情報発信を行うとともに、適切な医療を行うための体制整備を進めます。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ・感染症発生動向を早期に把握し、その情報を医療機関等に提供することにより、感染症のまん延防止に努めた。 ・結核健康診断や医療機関に委託して行う患者検診等を実施し、結核の早期発見、受診指導等に努めた。 結核健康診断受診率（管理検診）97.6%、 管理検診の受診率で目標を達成した。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 管理検診並びに患者家族や接触者等の定期外健診により、再発防止や感染拡大の防止に努める必要がある。	引き続き結核健診の受診率向上に取り組む。	保健
	○結核健康診断受診率の向上【主要指標】 ㊦85.8%→㊰93%	87%	88%	93%	93%	93%	98%	97%	◎			
524	●新型インフルエンザ対策として、県民への迅速・的確な情報提供、診療体制の整備、抗インフルエンザ薬の確保、ワクチン接種対応等、年間を通じた対応を推進します。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ・医療機関等の指定地方公共機関に対し業務計画の策定を促し、新型インフルエンザ発生時の医療体制等の整備を図った。 ・国のインフルエンザ等対応訓練に連動して県内でも訓練を実施 平成27年度 情報伝達訓練（11月27日・20医療機関、5団体、保健所、地衛研）実働訓練（11月30日・西部圏域） 平成28年度 情報伝達訓練（12月13日・19医療機関、5団体、保健所、地衛研）実働訓練（12月5日・東部圏域） 平成29年度 情報伝達訓練（11月7日・20医療機関、6団体、保健所、地衛研）実働訓練（11月17日・徳島阿波おどり空港、県立中央病院） ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 今後も具体的な事業を想定した訓練を実施する必要がある。	県内での新型インフルエンザ発生の備え、国の対応訓練と連動しながら、引き続き具体的な事業を想定した訓練を実施する。	保健
	○新型インフルエンザ等感染症の対策訓練 ㊦実施→㊰～㊳毎年実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	◎			
525	●徳島県肝炎対策協議会で肝炎対策について協議し、総合的な肝炎対策を推進します。また、ウイルス性肝炎の早期発見・早期治療のため、検査・治療体制の充実を図るなど、肝炎対策を推進します。＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ・事業者向け広報誌による啓発など、ウイルス検査のさらなる受検促進や肝疾患医療体制の整備に取り組んだ。 ・H29には、肝炎対策特別大使である伍代夏子氏が知事を表敬訪問し、県民に広く肝炎ウイルス検査の必要性等PRした。 ＜計画目標の達成見込み＞順調 ＜課題＞ 未受検者の掘り起こしに努める必要がある。	改訂した肝炎対策推進計画（H30年度～36年度）に基づき、更なる総合的な肝炎対策の推進を図る。	保健

主要施策：10 難病対策の推進	数値目標 達成状況	委員意見		部局
		評価	特記事項	
	☆	C		保健

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
526	●難病の制度改革にあわせ、難病患者に対する良質かつ適切な医療の確保と難病患者の療養の質の向上を図ることを目的に、地域の医療機関の連携による難病医療体制を整備し、難病相談・支援センターの機能強化を図ります。 ＜保健＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ・平成27年4月1日より徳島大学病院に難病総合アドバイザー（医師）を設置し、難病指定医の資質向上、医療機関ネットワークの構築に取り組んだ。 ・平成28年度は、さらなる難病相談支援体制の強化に取り組み、県、保健所、拠点病院・大学病院、患者団体と連携した新たな相談支援体制を構築した。 ・難病に対する正しい知識を普及啓発することが極めて重要であることから、6月を全国初の「徳島県難病対策普及啓発月間」と定め、県民に対して集中的に普及啓発を実施した。 ・平成29年度は、徳島大学病院を難病診療連携拠点病院、国立病院機構徳島病院を難病診療分野別拠点病院とする新たな難病医療提供体制を構築するための準備を進めてきた。 ＜計画目標の達成見込み＞ 達成可能 ＜課題＞ 新たな難病医療提供体制の構築にあたり、関係する要綱の改正が必要となる。	拠点病院を指定した後、周知を図ることで、新たな難病医療提供体制に基づく、難病相談・支援センターの機能強化の実効性を高めていく。	保健
	○新・難病医療拠点病院の指定【主要指標】 (25)→(29) 1病院			1病院				0	△			

主要施策： 1 1 自殺対策の推進	数値目標 達成状況	委員意見		部局
		評価	特記事項	
		☆☆☆	A	
				保健

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
527	<p>●「徳島県自殺対策基本計画」に基づき、行政及び民間団体における相談機能の強化や連携体制の構築等により、自殺予防を強力に推進するとともに、「徳島県自殺予防サポーター」（ゲートキーパー※、傾聴ボランティアなど自殺予防、傾聴の研修受講者）など、心のケアサポーターの更なる養成に努め、地域における自殺対策の推進を図ります。＜保健＞</p>	推進	→	→	→					<p><H27～H29取組内容と進捗状況></p> <p>1 サポーター養成研修の実施</p> <p>2 自殺予防の取組みの相互協力に関する協定締結（H27. 10. 20/ 6団体）（H29. 2. 28/ 8団体）（H30. 3. 2/ 4団体）</p> <p>上記の取組により、サポーター数及び協定団体数における目標値を達成した。</p> <p><計画目標の達成見込み> 順調</p> <p><課題></p> <p>自殺予防の協定締結団体と、より一層の連携を図ることで、サポーター養成研修の裾野拡大が必要。</p>	<p>・基礎的な研修によるサポーター数の拡大に加え、サポーターのスキルアップを図るため、研修内容を充実する。</p> <p>・協定締結団体と県内市町村担当者等の連携を強化するため、一堂に会し、研修会を実施する。</p>	保健
	○自殺予防サポーター数【主要指標】 ⑤ 11, 915人→③ 30, 000人	18千人	22千人	26千人	30千人	22, 334人	28, 121人	32, 750人	◎	<p><H29→H30計画の改善見直し箇所></p> <p>【数値目標上方修正】</p> <p>○自殺予防サポーター数【主要指標】 ⑤ 11, 915人→③ 32, 000人</p>		
	○自殺予防活動協定団体数 ⑤ 28団体→③ 52団体	35団体	44団体	48団体	52団体	40団体	48団体	52団体	◎			

主要施策：１２ ひきこもりに関する 相談体制の充実	数値目標 達成状況	委員意見		部局
		評価	特記事項	
	☆	C		保健

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
528	<p>●ひきこもり状態にある本人や家族の社会的参加を促進するために、臨床心理士等の専門家を対象とした「ひきこもり支援員」を養成し、ひきこもりに関する相談業務や支援ネットワークの構築を図ります。＜保健＞</p>	推進	→	→	→					<p>＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ H27年度から、専門職等を対象にひきこもりサポーター養成研修を実施している。 研修を修了し、サポーターとして活動することに同意した人をひきこもりサポーターとして登録した。</p> <p>＜計画目標の達成見込み＞ 順調</p> <p>＜課題＞ ひきこもりサポーターについて、大学院生等、新たな人材の確保を図る。 「ひきこもりサポーター派遣事業」を実施する市町村と連携しサポーターの円滑な派遣に努める必要がある。</p>	サポーター養成研修を実施するとともにサポーターの派遣が円滑に行われるよう努める。	保健
	○ひきこもり支援員養成数【主要指標】 ㉕→㉗～㉙年間 10人	10人	10人	10人	10人	63人	14人	6人	○			

主要施策：１３　人権教育・啓発の推進	数値目標 達成状況	委員意見		部局
		評価	特記事項	
	☆☆☆	A		危機・政策・県民・教育

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
529	<p>●「すべての人々の人権が尊重され、相互に共存しうる平和で豊かな社会」を実現するため、「徳島県人権教育・啓発に関する基本計画」に基づき、国、市町村、NPO等と連携を図りながら、同和問題をはじめ、女性、子ども、高齢者、障がい者、外国人など様々な人権問題の解決を目指し、人権教育啓発に係る諸施策を総合的かつ計画的に推進します。</p> <p>また、県民一人ひとりの人権が互いに尊重され擁護される社会を築くため、「あいぼーと徳島（人権教育啓発推進センター）」を拠点として、様々な人権課題や人権全般について県民が気軽に学習や相談等ができる場を提供するとともに、人権教育啓発活動を県内全域に展開（南部・西部地域での展開）するため、サテライト講座を創設し、県民の人権啓発意識の向上を図ります。＜県民＞</p>	推進	→	→	→					<p><H27～29取組内容と進捗状況></p> <p>「徳島県人権教育・啓発に関する基本計画」に基づき、計画的・総合的に人権啓発事業を実施するとともに、様々な人権課題に取り組むNPO、関係機関等と連携を取り人権教育・啓発に取り組んだ結果、あいぼーと徳島の事業参加者・利用者数については、目標を達成した。</p> <p>H28年度から「あいぼーとサテライトカレッジ人権啓発推進事業」として、人権啓発に関する講演会を、メイン会場と各サテライト会場を映像配信することにより、県内の各地域で幅広く県民の人権意識の向上を図っている。H28年度は四国大学と連携してメイン会場を徳島市の四国大学にて実施。H29年度は明治大学と連携してメイン会場を海陽町の海南文化村で実施した。</p> <p><計画目標の達成見込み> 順調</p>	<p>県の人権教育啓発の推進拠点である「あいぼーと徳島」において、これまで「基本計画」に基づき取り組んできた成果や手法を活かしながら、新たな法律や人権課題にも適切に対応した人権教育啓発推進事業の取組をより一層推進する。</p> <p>また、新しい人権啓発の手法としてH28年度に創設したサテライト講座について更なる充実を図り、地域的な条件に関係なく、身近な施設で県民が参加できる住民参加型の人権啓発の定着を図る。</p>	県民
	<p>○「あいぼーと徳島（人権教育啓発推進センター）」事業参加者・利用者数</p> <p>【主要指標】</p> <p>㊦31,952人→㊦34,500人</p>	33,000人	33,500人	34,000人	34,500人	37,320人	34,929人	39,220人	◎	<p><課題></p> <p>「部落差別解消推進法」「障害者差別解消法」「ヘイトスピーチ法」などの人権に関する法律の施行や、インターネット上の差別書き込み、性同一性障がいなどの新たな人権課題に対して適切に対応していく必要がある。</p> <p>また、サテライト講座については、県内の様々な地域において事業を実施していく必要がある。</p>		
	<p>○「あいぼーと徳島（人権教育啓発推進センター）」サテライト講座創設</p> <p>㊦創設</p>		創設				創設		◎			
530	<p>●人権啓発に関するデジタルコンテンツを企画提案公募方式等を活用するなど、募集を行い、「県のホームページ」等を活用し、公表・発信することにより、「人権尊重とくしま」づくりを進めます。＜県民＞</p>	検討・モデル実施	募集・発信	→	→					<p><H27～H29取組内容と進捗状況></p> <p>H28年度から「若者発！人権啓発映像コンテンツ発信事業」として、高校生・大学生等を対象に、人権啓発動画を募集するとともに、入賞作品については、人権フェスティバル、県内ケーブルテレビ、映画館等で放映することにより、県民への情報発信を行った。</p> <p>H28年度の作品の募集テーマは「子ども、障がい者、外国人、インターネットによる人権侵害」で、15作品の応募があった。</p> <p>H29年度は前年度に加えて「同和問題、性同一性障がい」を作品の募集テーマとし、39作品の応募があった。</p> <p><計画目標の達成見込み> 順調</p>	<p>H30年度も引き続き、人権啓発動画の企画・制作を通じて、若者の人権意識の一層の向上を図るため、高校や大学等への周知・広報を積極的に実施し、より多くの若者の参加につなげる。</p>	県民
	<p>○人権啓発デジタルコンテンツの募集・発信</p> <p>㊦募集・発信</p>		募集・発信				募集・発信		◎	<p><課題></p> <p>人権の世紀(21世紀)を担う若者がより身近に人権を感じ、主体的に啓発に参加できるよう高校や大学等と連携して取組を進める必要がある。</p>		

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
531	●「徳島県人権教育推進方針」に基づき、学校教育及び社会教育において、学習者の発達段階に応じ、あらゆる機会や場を捉えて人権教育を推進するとともに、その具体実践化を図ります。＜教育＞	推進・実践	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ○人権教育研究指定校 平成27年度人権教育指定校 ・石井町高川原小学校（H27.10.28 研究会） ・阿南市阿南中学校（H27.11.6 研究会） ・石井町高川原幼稚園（H27.10.28 研究会） ・徳島県立中央高等学校（H27.11.18研究会） ・三好市芝生小学校 ・松茂町松茂中学校 ・三好市辻幼稚園 ・徳島県立鴨島支援学校 平成28年度人権教育指定校 ・三好市芝生小学校（H28.11.9 研究会） ・松茂町松茂中学校（H28.11.10 研究会） ・三好市辻幼稚園（H28.11.9 研究会） ・徳島県立鴨島支援学校（H28.11.2研究会） ・徳島市洪野小学校 ・三好市池田中学校 ・徳島市大松幼稚園 ・徳島県立城北高等学校 平成29年度人権教育指定校 ・徳島市洪野小学校（H29.11.2 研究会） ・三好市池田中学校（H29.11.9 研究会） ・徳島市大松幼稚園（H29.11.2 研究会） ・徳島県立城北高等学校（H29.11.15 研究会） ・那賀町相生小学校 ・小松島市小松島中学校 ・那賀町あいおいこども園 ・徳島視覚支援学校・徳島聴覚支援学校 平成27、28、29年度は、それぞれ指定校を8校実施し、目標を達成した。 ○社会人教育における人権教育推進者の養成 社会教育における人権教育指導者研修会 （H27年度2回、H28年度2回、H29年度2回実施） 上記の取組により、養成数をほぼ達成した。 ＜計画目標の達成見込み＞ 達成可能	○人権教育研究指定校 今後も人権教育研究校を指定しその成果を発表することにより、人権教育の指導方法等の改善・充実を図る。 ○社会教育における人権教育推進者の養成 人権教育の推進者の資質向上のため、「あいぼーと徳島」や男女参画・人権課との連携を図る。	教育
	○人権教育研究指定校数 ㊦8校→㊧～㊩毎年8校を指定	8校	8校	8校	8校	8校	8校	8校	◎			
	○社会教育における人権教育推進者の養成数 ㊦40人→㊧～㊩年間50人	50人	50人	50人	50人	54人	58人	55人	◎	＜課題＞ ○人権教育研究指定校 文科省の人権教育推進事業（指定校事業）がなくなった場合のことを考えておく必要がある。 ○社会教育における人権教育推進者の養成 研修会で学んだことを持ちかえって実践することは、簡単なことではないとの意見が一部に見られることから、より実践につながる研修内容の改善が必要。		

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
532	●インターネットによる人権侵害を予防するため、国等と連携しながら、プロバイダー等に対し、有害情報への適切な対応を促すとともに、利用者一人ひとりがインターネットを正しく利用できるようパネル展示や講座の実施等啓発活動を推進します。＜政策・県民＞	推進	→	→	→					<p>＜H27～H29取組内容と進捗状況＞</p> <p>徳島県人権教育啓発推進月間にあわせ、県内のインターネットプロバイダ及び一般財団法人インターネット協会に対し、インターネット上の人権侵害情報及び有害情報に対し適切な対応をするよう文書で依頼。</p> <p>・あいぼーと徳島において、「インターネットと人権」に関する啓発パネル展示を行うとともに、指導者養成セミナーや教職員を対象にした人権教育セミナーを開催し、情報化社会に対応した人権教育・啓発の取組を推進した。</p> <p>＜計画目標の達成見込み＞ 順調</p> <p>＜課題＞</p> <p>・インターネットプロバイダに対する指導権限は無いため、依頼に留まっている。</p> <p>・情報通信機器の急速な普及に伴い、インターネットによる人権侵害は増加しており、県民の人権意識の更なる向上を図る必要がある。</p>	<p>・引き続き「徳島県人権教育啓発推進月間」に合わせ、インターネットプロバイダに対し、文書により適切な対応を求める。</p> <p>・あいぼーと徳島において、インターネットによる人権侵害を予防するための各種施策を展開し、県民への人権啓発を一層推進していくとともに、学校・関係団体等との連携を強化していく。</p>	政策 県民
533	●犯罪被害者やその家族等が受けた被害を回復し、再び平穏な生活を営むことができるよう支援するため、犯罪被害者等への対応を総合的に推進します。（再掲）＜危機＞	推進	→	→	→					<p>＜H27～H29取組内容と進捗状況＞</p> <p>1 犯罪被害者支援講演会を開催し、一般県民、関係機関の職員の犯罪被害者支援に対する理解の醸成を図った。（平成27年11月27日約60名、平成28年11月28日約80名、平成30年1月26日約80名）</p> <p>また、「犯罪被害者週間」事業徳島大会を警察庁との共催で開催した。（平成29年11月28日約200名）</p> <p>2 市町村や関係機関の担当職員を対象とした研修会を開催した。犯罪被害者にとって、最も身近な行政機関である市町村において犯罪被害者等への相談体制を充実させることが重要であることから、被害者が二次的被害を受けることがないよう、犯罪被害者支援に対する担当職員の理解の醸成を図った。</p> <p>＜計画目標の達成見込み＞ 順調</p> <p>＜課題＞</p> <p>行政の担当窓口と専門職を配置する支援機関との連携を密にし、更なる連携体制の強化が必要である。</p>	<p>市町村や関係機関の担当職員に向けて、行政の担当窓口において、担当職員への理解の醸成により二次的被害の防止を図るとともに、専門職を配置する支援機関との連携強化を実現するための効果的な研修会を開催する。</p>	危機

主要施策：１４ 子どもの人権の擁護	数値目標 達成状況	委員意見		部局
		評価	特記事項	
	☆	C		県民

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
534	●様々な事情により家庭で育てられない子どもに対して、児童福祉施設や里親制度を活用し、より家庭的な環境での養育を図ります。＜県民＞	推進	→	→	→					<p><H27～H29取組内容と進捗状況> 平成27年3月に策定した、徳島県児童養護施設等の小規模化及び家庭的養護推進計画を基本として、引き続き里親委託の推進を図った。 また、県の子育てポータルサイト「とくしまはぐくみネット」での情報発信、里親月間を中心に、広報ポスターの掲出やパネル展、新聞・ラジオ等による広報を行うとともに、児童家庭支援センターひかりに委託し、里親経験者による講演会や里親制度の説明会などを開催するなど、里親制度の普及促進を図った。</p> <p><計画目標の達成見込み> 努力を要する</p> <p><課題> 児童を里親委託するに当たっては、児童のアセスメントを十分に行い、当該児童に最も適合する里親に委託していく必要がある。 しかしながら、受け皿となる里親が少ない状況であるため、普及啓発及びリクルート活動を行うなど新たな里親の開拓が必要である。</p> <p><H29～H30計画の改善見直し箇所> ●様々な事情により家庭で育てられない子どもに対して、児童養護施設や里親制度を活用するとともに、里親推進に当たっては、制度の裾野を広げるための普及啓発活動や、里親家庭への総合的支援など、より家庭的な環境で児童が養育できるよう取り組めます。</p>	<p>要保護児童が将来にわたり幸せに暮らせるよう、慎重に判断しつつ、徳島県児童養護施設等の小規模化及び家庭的養護推進計画に基づき、可能な限り家庭的な環境において、安定した人間関係の下で要保護児童が育てられるよう、里親委託での養護を推進する。 そのため、未委託里親に対するトレーニング実施による委託可能な里親の育成や、小規模住居型児童養育事業（ファミリーホーム）等の支援を進める。 また、改正児童福祉法の理念である家庭養育優先原則を具体化する「新しい社会的養育ビジョン」を踏まえた県計画策定についての検討を行う。</p>	県民
	○里親等委託率【主要指標】 ㊦ 14.7%→㊧ 16.1%	15.2%	15.4%	15.6%	16.1%	15.3%	12.8%	13.0%	△			
535	●要保護児童対策地域協議会を活用し、必要な支援を実施することにより、児童虐待の早期発見・早期対応を図るとともに、虐待防止に向けた普及啓発を図ります。＜県民＞	推進	→	→	→					<p><H27～H29取組内容と進捗状況> 全市町村で設置されている要保護児童対策地域協議会と緊密に連携するとともに、当協議会に参加し助言を行うなど、児童虐待防止対策を推進した。また、要保護児童対策地域協議会とネットワーク各機関の連携を図るため、保健・福祉・医療の担当者を対象に研修を行った。</p> <p><計画目標の達成見込み> 順調</p> <p><課題> 要保護児童対策調整機関において、専門性の高い職員を配置する必要がある。</p>	<p>関係機関と連携を強化するとともに、児童福祉法に規定される研修を実施するなど、各市町村要保護児童対策地域協議会の機能強化の支援を行い、より着実な児童虐待防止対策を推進する。</p>	県民

基本目標5「みんなが元気・輝きとくしま」の実現

5-5 ふるさと貢献とくしまの推進

主要施策：1 NPO・ボランティアとの連携・協働	数値目標 達成状況	委員意見		部局
		評価	特記事項	
	☆☆☆	A		県民・農林・県土

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
536	●参加と協働による地域づくりを推進するため、「とくしま県民活動プラザ」を拠点として、県民による社会貢献活動に対する総合的な支援を行います。＜県民＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 1 社会貢献活動の情報収集及び情報提供 2 会議室等の貸出しや交流の場の提供 3 各種相談、アドバイザーの派遣 4 人材育成のための研修・講座の開催 5 NPOステップアップ事業として、県内NPO団体と協働事業を実施（H27） 6 がんばるNPO事業として、県内NPO団体と協働事業を実施（H28、H29） 7 NPO事業の支援、人材育成及びとくしま県民活動プラザの広報の実施 こうした取組みにより、「とくしま県民活動プラザ」利用者は、目標を達成した。	ボランティア活動をはじめとしたNPO団体による社会貢献活動を活発化し、参加と協働による地域づくりを推進するため、次の施策を継続する。 1 社会貢献活動の情報収集及び情報提供 2 会議室等の貸出しや交流の場の提供 3 各種相談、アドバイザーの派遣 4 人材育成のための研修・講座の開催（がんばるNPO応援事業） 5 指定NPO法人を目指す法人への支援（がんばるNPO応援事業） 6 県民の社会貢献活動への参加促進（がんばるNPO応援事業） 7 NPO事業の支援、人材育成及びとくしま県民活動プラザの広報の実施 8 徳島ボランティア推進センターと協働した、ボランティアへの参加呼び掛け	県民
	○「とくしま県民活動プラザ」利用者数【主要指標】 ㊦38,663人 →㊦～㊦年間39,000人	39,000人	39,000人	39,000人	39,000人	39,083人	45,636人	43,947人	◎			
	○NPO法人数 ㊦327団体→㊦370団体	340団体	350団体	360団体	370団体	339団体	353団体	366団体	◎			
	○ボランティア・アドプト登録人口 ㊦153,123人→㊦155,000人	153,500人	154,000人	154,500人	155,000人	153,508人	153,855人	155,472人	◎			
537	●共助社会づくりを推進するため、住民団体や企業等との協働による公共施設の新たな維持管理への取組みを進めます。＜県民・県土＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 広く周知を行った結果、堤防の除草をはじめとして、 ・H27 54団体（道路26、河川28） ・H28 68団体（道路35、河川33） ・H29 79団体（道路43、河川36） に参加頂いた。 上記の取り組みにより、数値目標を達成した。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 引き続き周知を行い、継続的な参加を呼びかけていく。	引き続き、周知に努め、住民団体や企業等との協働による公共施設の新たな維持管理への取組みを進める。	県民 県土
	○官民協働型維持管理の参加団体数（累計） ㊦41団体→㊦70団体	44団体	46団体	65団体	70団体	54団体	68団体	79団体	◎			

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
538	●「農山漁村（ふるさと）は県民の宝物」との考えに立ち、“まちとむら”の「協働」による農山漁村の保全・活性化を促進します。＜農林＞	支援	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ・HPやマスコミを通じたPRを行った。 ・事業説明リーフレットを作成した。 ・企業訪問など協働パートナーの積極的な掘起しを行った。（H27：新規協働パートナー5者、H28：新規協働パートナー4者、H29：新規協働パートナー7者） ・協定組織の増加により、H29年度は県内20の地域において、計34回584人が参加した協働活動が行われた。	“まちとむら”の「協働」による農山漁村の保全・活性化を促進するため、引き続き新規協働パートナーとの協定締結を推進する。	農林
	○農山漁村（ふるさと）協働パートナーの協定数（累計） ㊦39協定→㊰58協定	49協定	52協定	55協定	58協定	52協定	56協定	63協定	◎	＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 「協働」による農山漁村の保全・活性化に向けた、さらなる取組の拡大		
539	●住民団体や企業等との協働による地域づくりを進めるため、アドプトプログラムの取組みを推進します。＜県民＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ とくしまボランティア推進センターと連携し、ボランティア活動に関する普及啓発、情報提供、人材育成等総合的な支援を行った。	住民団体や企業等との協働による地域づくりを進めるため、次の施策を継続する。 1 とくしまボランティア推進センターと連携し、ボランティア活動に関する普及啓発、情報提供、人材育成等総合的な支援 2 「吉野川交流推進会議」の運営により、国や県の関係機関との連携を図り、アドプト参加団体や企業の募集の実施	県民
	○アドプト参加団体数 ㊦1, 025団体 →㊰年間1, 025団体	1,025団体	1,025団体	1,025団体	1,025団体	1,017団体	985団体	956団体	○	＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 県民、事業者等のアドプトへの参加やボランティア活動への積極的な参画が必要。		
540	●吉野川を全国に誇れる魅力あるブランドとするために進めている、「恵みの宝庫“吉野川”創造プロジェクト」の一環として、「アドプト・プログラム吉野川」を進化・発展させ、県民との協働による堤防沿いへの植樹及び植樹後の維持管理等に取組みます。＜県土＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 吉野川左岸堤防（応神町吉成、阿波市蛇池）において、NP0法人蜂須賀桜と武家屋敷の会、吉野川交流推進会議、東光株式会社、葉月会と協働し、蜂須賀桜をH27に11本、H28に10本、H29に4本の植樹を行った。	河川や道路等の施設管理者や関係機関と十分に連携を図り、維持管理等に取り組む。	県土

主要施策：2 NPO等の自立促進	数値目標 達成状況	委員意見		部局
		評価	特記事項	
		☆☆☆	A	

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
541	●夢と活力でにぎわうまちづくりを進めるため、県民の寄附意識の醸成を図るとともに、資金調達機能の強化や認定NPO法人化の促進などによりNPO等の自立的活動を支援します。＜県民＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 1 資金調達機能の強化を目的とした研修の実施 2 ゆめバンクとくしま助成事業の実施とホームページを活用したNPO団体の情報発信 3 認定NPO法人の認定基準であるPST要件を満たす法人として、県指定NPO法人制度の創設（H27） 4 「みんなが支えるまち「とくしま」シンポジウム」の開催（H27） 5 がんばるNPO応援事業の実施（H28、H29） ・指定NPO法人を目指す法人への支援 ・県民の社会貢献活動への参加促進 ・NPOの人材育成 6 とくしま県民活動プラザで連携しているネットワーク事業を広報するほか、ネットワークの強化を支援した。 こうした取組により、概ね目標を達成した。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 「ゆめバンクとくしま」の更なる周知が必要。	NPO等の自立的活動を支援するため、次の施策を継続する。 1 資金調達機能の強化を目的とした研修の実施 2 ゆめバンクとくしま助成事業の実施とその周知及びホームページを活用したNPO団体の情報発信 3 寄附を集めやすくなる認定NPO法人の認定基準を満たした「県指定NPO法人制度」の推進 4 NPOの財政と人材の強化を図る「がんばるNPO応援事業」の実施 5 とくしま県民活動プラザで連携しているネットワーク事業の広報及びネットワーク強化の支援	県民
	○認定NPO法人数【主要指標】 ㉕ 1団体→㉗ 7団体	2団体	3団体	6団体	7団体	3団体	5団体	6団体	◎			
	○資金調達機能強化研修への参加者数 ㉕ 100人→㉗ 100人	100人	100人	100人	100人	164人	104人	110人	◎			
	○「とくしま県民活動プラザ」において、情報発信を行っているNPO法人等の団体数 ㉕ 93団体→㉗ 180団体	120団体	140団体	160団体	180団体	164団体	187団体	181団体	◎			
	○「ゆめバンクとくしま」への寄附金を活用した助成件数 ㉕ 4件→㉗ 10件	10件	10件	10件	10件	10件	7件	10件	○			
	○NPO等ネットワーク化数 ㉕ 10ネットワーク→㉗ 10ネットワーク		5 ネットワーク	10 ネットワーク	10 ネットワーク	-	5 ネットワーク	10 ネットワーク	◎			
	○NPO法人が寄附を集めやすくなる本県独自の基準を創設 ㉕ 創設	創設				創設			◎			
542	●地域の課題解決、雇用創出など地域の活性化を図るため、事業活動を通じて社会的課題の解決を図る事業型NPOを育成します。＜県民＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ・とくしま県民活動プラザを拠点として、 ①NPO等が行う社会貢献活動に対する各分野のアドバイザーの派遣 ②事業型NPOの事業強化・創出支援を行うための委託事業 ③NPO等と企業・行政の交流を推進するためのモデル事業を実施した結果、目標を達成した。 ＜計画目標の達成見込み＞順調 ＜課題＞ NPO法人の活動目的に応じた支援が必要。	事業型NPOを育成するため、とくしま県民活動プラザを拠点とした、次の事業を実施する。 1 NPO等が行う社会貢献活動に対する各分野のアドバイザーの派遣 2 組織強化や人材育成を目的とした研修・講座の開催 3 事業型NPOを目指すNPOからの相談対応	県民
	○専門家等の派遣・相談件数 ㉕ 20件→㉗ 20件	20件	20件	20件	20件	23件	22件	22件	◎			
543	●自主的・自立的な社会貢献活動を行うNPO法人の設立支援のための税制措置を講じます。＜経営・県民＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ NPO法人の設立を支援するため、県税（法人県民税均等割、不動産取得税、自動車取得税）の減免措置を講じている。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 特になし	引き続き、支援措置を講じる。	経営 県民

主要施策：3 魅力ある地域づくりの推進	数値目標 達成状況	委員意見		部署
		評価	特記事項	
	☆☆	B		危機・政策・商工・農林・西部

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部署
		H27	H28	H29	H30							
544	●徳島ファンの輪を広げるため、「ふるさと納税制度」を通じて、県内外に「ふるさと徳島」の魅力をより積極的にアピールするとともに、県出身者など本県ゆかりの方々との連携をさらに強化し、活力と魅力あふれる徳島づくりを進めます。＜政策＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ・さらなる「徳島ファン」の拡大を図るため、寄附メニューをわかりやすく整理するとともに、好みの県産特産品を返礼品に選択できる仕組みを導入した。 ・コンビニ、ペイジーの2つの新たな支払方法を導入し、寄附者の利便性向上を図った。 ・「パンフレットの制作」や「ホームページリニューアル」による広報を拡充するとともに、阿波おどりシーズン中のPRや県人会、県立高校同窓会等を通じたPRを実施した。 ・ふるさと納税を活用し、「ふるさと徳島」の魅力を高め、全国に発信する「ふるさと“OURとくしま”応援事業」を実施した。 ・税制改正により、H27.4.1以降の寄附金には「ふるさと納税ワンストップ特例制度」が適用となった。これらの取組みにより、寄附件数については、過去最多となった。 ・H29.1から返礼品の充実を行い全103品目となり、さらなる拡充を図っている。 ・H30.4には、新たに10の寄附金活用メニューへとリニューアルし、使い道をより幅広くより具体的なものへ全面的に見直した。 ・H27実績：金額49,457,667円、1,167件 ・H28実績：金額46,188,838円、1,417件 ・H29実績：金額58,969,000円、1,463件	引き続き、県人会や各種イベント等の様々な機会を通じたPRを行うとともに、寄附者の利便性の向上や返礼品の拡充、寄附金を活用した魅力ある事業の展開により、ふるさと納税額の増を図る。	政策
	○ふるさと納税寄附件数【主要指標】 ㊦212件→㊦1,200件	330件	1,050件	1,200件	1,200件	1,167件	1,417件	1,463件	◎	＜計画目標の達成見込み＞順調 ＜課題＞ ・「ふるさと徳島」のより効果的なPRや寄附者のさらなる利便性の向上 ・「企業版ふるさと納税」の活用 ・寄附金を活用した魅力ある事業の展開		

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
545	●徳島県にゆかりのある企業等から「徳島の応援団」として積極的に寄附を行っていただき、地方創生に資する事業を官民協働で取り組むとともに、県外企業とのつながりを強化し、企業の地方移転につなげるため、「企業版ふるさと納税」を推進します。＜危機、政策、商工、農林、西部＞		推進	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ○地域再生計画認定数 「人材の育成・確保」を目的とした2件、「観光業の振興」を目的とした2件、合計4件の計画について、国から認定を受けた。 ○映像融合イベント来場者数 徳島における映像関連産業や映像文化の活性化を図るため、「徳島国際映画祭」において「映画のデザイン」をテーマに設定し、映像の専門家等を招いてトークイベントやワークショップの開催、「地域映画」の上映等を行った。 ○「にし阿波」における外国人延べ宿泊者数 外国の旅行会社、メディア等へ観光情報のPRを実施し、H29計画目標を達成した。 ○新規就農者数 「れんこん塾推進研究会」を設置し、就農相談会「新農業人フェア」でのPRや、現地見学ツアーを実施することにより、新規就農者・移住就農者の確保対策を推進した。 ○新規林業就業者数 「とくしま林業アカデミー」において林業機械の実習見学や操作を体験できるオープンキャンパスを実施したほか、研修の拠点となる人材育成棟を整備し、高性能林業機械の操作を反復訓練できるシミュレータを設置した。 ○新規漁業就業者数 本県での漁業就業に興味のある移住希望者等を対象に、現役漁業者等を講師として、漁業体験会を実施した。 ○消防団への新規入団者数 消防団入団促進ムービーやポスターを作成し、消防団への理解と消防団への入団促進等の周知啓発を行ったほか、訓練に参加する機会が少ない女性消防団員等を対象に、スキルアップ研修を実施した。 ○奨学金返還支援制度（全国枠）の助成候補者認定数 徳島県奨学金返還支援制度について、より多くの方が応募できるよう、学部学科・業種の限定を撤廃するとともに、制度説明会や学生相談会を実施した。応募者について大学等卒業後、県内事業所で一定期間就業した場合に奨学金の返還を支援する「助成候補者」（全国枠）を認定した。 ○年間延べ宿泊者数 海外からの団体旅行者を対象として、観光施設等において阿波おどり体験イベントを実施した。	・「企業版ふるさと納税」の活用を通じて、官民協働による地方創生に向けた取組みを引き続き推進していくため、地域再生計画の策定を行う。 ・地域再生計画に基づいて行う各事業については、関係機関と連携を図りながら、目標達成に向けた取組みを推進していく。	危機 政策 商工 農林 西部
	○「企業版ふるさと納税」に係る地域再生計画認定件数（累計） ㉔→㉔5件		3件	4件	5件		4件	4件	◎			
	○映像融合イベント来場者数 ㉔→㉔2,000人		1,500人	2,000人	2,000人		1,700人	2,000人	◎			
	○「にし阿波」における外国人延べ宿泊者数 ㉔4,880人→㉔24,000人 ＜暦年＞		11,000人	21,000人	24,000人		23,681人	28,824人	◎			
	○新規就農者数（累計）（再掲） ㉔105人→㉔927人 ＜暦年＞		480人	727人	927人		480人	611人	○			
	○新規林業就業者数（累計）（再掲） ㉔15人→㉔160人		90人	120人	160人		98人	151人	◎			
	○新規漁業就業者数（累計）（再掲） ㉔29人→㉔130人		80人	100人	130人		93人	117人	◎			
	○消防団への新規入団者数（再掲） ㉔→㉔㉔年間500人		500人	500人			466人	H31年1月 頃判明予定	○	＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ ・企業からの積極的な寄附が見込める事業を盛り込んだ計画を策定する必要がある。		
	○奨学金返還支援制度（全国枠）の助成候補者認定数（再掲） ㉔→㉔㉔～㉔100人		100人	100人	100人		158人	151人	◎	・それぞれの事業や制度の定着を図り目標を達成するため、周知方法に一層の工夫を凝らすなど、効果的かつ適切な推進が必要。		
	○年間の延べ宿泊者数 ㉔226万人→㉔300万人 ＜暦年＞			285万人	300万人			230万人	△			

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
546	●大学などの高等教育機関との連携強化を進め、高等教育機関の有する知的・人的資源及び社会貢献機能を地域づくりに活かすとともに、包括協定締結大学と連携した「地域連携フィールドワーク講座」を拡充し、大学生による地域の課題解決や活性化に向けた取組を推進することで、地域の未来を創造する人材を育成します。（再掲）＜政策＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 1 県内高等教育機関の長と知事の懇談会を開催（H27:1回、H28:1回、H29:1回） 2 徳島県・高等教育機関連携協議会を開催（H27:1回、H28:1回、H29:1回） 3 「地域連携フィールドワーク講座」の実施 H27: 講座数13講座 参加人数延べ525名 H28: 講座数11講座 参加人数延べ530名 H29: 講座数13講座 参加人数延べ514名 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ フィールドワークの受入機関等拡大	引き続き、地域の課題解決につながるフィールドワーク講座の実施に向け、関係機関との連携強化を図る。	政策
	○「地域連携フィールドワーク講座」 延べ参加人数（年間） ㉕→→㉙500人	400人	430人	500人	500人	525人	530人	514人	◎			
547	●県内大学と連携して、新たに「ボランティアパスポート制度」を創設し、県がボランティアメニューを提供するとともに、大学は学生のボランティア活動を単位に認めることで、学生による地域でのボランティア活動を促進します。（再掲）＜政策＞	創設・ 先行 実施	推進	拡充	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 1 平成27年度は、「ボランティアパスポート制度」を徳島大学と共同で開発、徳島大学で先行実施し、49人が参加、うち11人が修了 2 平成28年度は、徳島文理大学に拡充し、徳島大学、徳島文理大学の学生合計315名が参加し、うち168名が修了 3 平成29年度は、青のパスポート（上級編）を6名が初めて修了 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ ボランティア受入団体（活動）数の確保とボランティア活動への理解が必要 （アルバイトとの区別など）	更なる拡充に努めるとともに、ボランティア受入団体（活動）との連携強化を図る。	政策
	○「ボランティアパスポート制度」の創設・ 推進 ㉗先行実施→㉙拡充	先行 実施		拡充		先行実施	拡充		◎			

主要施策：４　活力ある農山漁村づくり	数値目標 達成状況	委員意見		部局
		評価	特記事項	
	☆☆☆	A		政策・農林

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
548	●人口減少社会においても持続的発展が見込まれる農村を創造するため、地域と行政が一体となり、農村地域に存在する資源を活用した将来像の作成とその実現に向けて取り組みます。＜農林＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 「未来ある農山村育成支援事業」及び「あわの農山漁村（ふるさと）魅力創生事業」を活用し、 ○H27：国府地区（徳島市）、鷺敷・相生地区（那賀町）、上那賀・木沢・木頭地区（那賀町） ○H28：坂本地区（勝浦町）、木岐奥地区（美波町）、脇町大滝山周辺地区（美馬市） ○H29：美郷地区（吉野川市）、木頭南宇地区（那賀町）、穴吹仕出原地区（美馬市） において将来ビジョンを作成した。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 将来ビジョンの作成に取り組む地区の掘り起こし。	人口減少社会においても持続的発展が見込まれる農村を創造するため、市町村や地域住民と連携の上、「未来ある農山村づくり」に向けたビジョンの作成を積極的に推進する。	農林
	○「未来ある農山村づくり」に向けたビジョンの作成地区数（累計）【主要指標】 ㉕→㉙12地区	3地区	6地区	9地区	12地区	3地区	6地区	9地区	◎			
549	●地域の集落維持・活性化を図るため、地域住民が中心となって構成される地域コミュニティや複数の集落が連携して実施する、医療・福祉対策、日常生活における交通の確保、地域産業・生業の振興、地域の伝統文化の継承・振興等の取組を促進します。＜政策＞	促進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 1 とくしま集落再生推進会議（H27：2回） 2 とくしま集落再生アドバイザー会議（H28：1回、H29：1回） 3 過疎対策に係る県・市町村連絡会議（H28：3回、H29：3回） 4 小さな拠点・地域運営組織の形成に係る市町村説明会及び意見交換会（H28：1回） 5 地域コミュニティ形成のため市町村に対し県交付金で支援（H29：3町） ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ 地域住民自らが主体となった組織体制づくり（地域運営組織）が必要	市町村と協力・連携の上、地域住民自らが主体となった組織体制づくり（地域運営組織の形成）に向け取り組む。	政策
	○地域コミュニティ等における取組事例数 ㉕→㉙47事例	8事例	21事例	34事例	47事例	8事例	23事例	38事例	◎			
550	●四国4県が連携して四国のグリーン・ツーリズムを推進するとともに、インターネットを活用したグリーン・ツーリズムのPRを展開し、徳島の農山漁村への入り込み客数の増加を図り、活気あるむらづくりを進めます。＜農林＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 1 農家民宿スキルアップセミナー開催（H27：3回、H29：4回） 2 四国グリーンツーリズム推進協議会（H27：3回、H28：3回、H29：3回） 3 「思いつき四国！88癒しの旅。キャンペーン」によるPR（H27：7/18-1/17、H28：7/16-1/15） 4 インバウンド研修会の開催（H28：4回、H29：3回） ＜計画目標の達成見込み＞ 順調 ＜課題＞ ・増加傾向にある体験宿泊者を効率的に受け入れるため、開業希望者の掘り起こしや近隣民宿による連携促進、インバウンド対応の強化が必要	引き続き、開業希望者に対する支援や、増加傾向にあるインバウンド需要を取り込むための研修、国内外への情報発信を実施し、「とくしま農林漁家民宿」の魅力向上に努める。	農林
	○とくしま農林漁家民宿数（累計） ㉕30軒→㉙40軒	34軒	36軒	38軒	40軒	37軒	41軒	51軒	◎			
	○とくしま農林漁家民宿等の体験宿泊者数 ㉕1,780人→㉙2,200人	1,900人	2,000人	2,100人	2,200人	3,190人	3,370人	3,713人	◎			

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	数値目標 の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・ 計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
551	●継続的な農業生産活動による耕作放棄地の発生防止や、集団的かつ持続可能な体制整備、農地・農業用水の保全の取組みにより、農業・農村が有する国土保全や景観維持等の多面的機能の確保を図ります。＜農林＞	支援	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ ・関係市町村への説明会 (H27:2回、H28:2回、H29:2回) ・地元集落への説明会 (H27:6回、H28:2回、H29:1回) ・多面的機能支払交付金研修会 (H27・H28・H29実施) 上記の取組により、三カ年で広域連携組織が新たに6組織発足するとともに、共同活動実施地区面積は、12,879ha(614ha増)に拡大した。	集落、土地改良区、地域の関係団体など、地域の実情に応じた者から構成される「広域連携組織」の設立による体制強化を推進する。	農林
	○多面的機能の維持・発揮に取り組んだ 広域連携組織数 ㊦8組織→㊰20組織	12組織	15組織	17組織	20組織	17組織	19組織	19組織	◎	＜計画目標の達成見込み＞ 順調		
	○多面的機能の維持・発揮のための 共同活動実施地区面積が耕地面積に占める割合 ㊦32%→㊰30%			30%	30%			43%	◎	＜課題＞ 農業者をはじめとする活動組織の高齢化		
552	●棚田など農村景観を形成する貴重な財産の保全・整備・活用による地域コミュニティの新たな醸成と、スローライフを体験できる場づくりを進めます。＜農林＞	推進	→	→	→					＜H27～H29取組内容と進捗状況＞ 1. 市町村との連携により、「ふるさと水と土指導員」候補者の掘り起こしを行い、全国研修会へ派遣の上、毎年1名の「ふるさと水と土指導員」を新たに認定した。 2. 「ふるさと水と土指導員」の資質向上や、活動促進を図るため、研修会（毎年1回）を開催した。 ＜計画目標の達成見込み＞ 順調	市町村などの関係機関及び現任の指導員と連携しながら、新たな人材の発掘や育成を図り、農山漁村地域のリーダー的役割を担う「ふるさと水と土指導員」の確保に引き続き取り組む。	農林
	○「ふるさと水と土指導員」の認定数 ㊦49人→㊰54人	51人	52人	53人	54人	51人	52人	53人	◎	＜課題＞ 高齢化が著しい農山漁村地域における、リーダー的役割を担う「指導員」の確保		

主要施策：5 オープンデータの利活用促進	数値目標達成状況	委員意見		部局
		評価	特記事項	
	☆☆☆	A		政策

番号	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				実績値（H27）	実績値（H28）	実績値（H29）	数値目標の達成度	H27～H29取組内容と進捗状況・計画目標の達成見込み・課題	今後の取組方針	部局
		H27	H28	H29	H30							
553	●県民の利便性向上等を図るため、市町村や民間の公的団体等とも連携しオープンデータポータルサイトの充実を図り、「宝の山」である公共データの利活用を促進します。＜政策＞	推進	→	→	→					<H27～H29取組内容と進捗状況> 1 オープンデータポータルサイトの本格運用開始 2 オープンデータ利活用推進会議の設置・開催（H29.4.1 徳島県データ利活用推進会議に改組） 3 オープンデータ推進指針の策定 4 民間団体等と連携してオープンデータ関連イベントを開催 5 市町村のオープンデータ公開を促進	オープンデータポータルサイトを円滑に運用するとともに、市町村及び民間と連携した公開データの充実、さらにはフォーラム・ワークショップ等のイベント開催により、ICT人材の交流活性化やオープンデータの利活用を一層促進する。	政策
	○オープンデータ数（累計）【主要指標】 ②5→③01,000件	600件	800件	900件	1,000件	643件	820件	921件	◎	<計画目標の達成見込み> 順調 <課題>		
	○オープンデータ利活用によるアプリケーション数（累計） ②5→③0300本	50本	100本	200本	300本	69本	101本	211本	◎	1 関係機関との連携により、利活用促進につながる有用なデータ・ニーズの高いデータの公開 2 利便性の高い良質なアプリ開発の促進		